

「サービス・ラーニング(Service-Learning)」プログラムの開発原理："Active Citizenship Today(ACT)"の場合

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 静岡大学教育学部 公開日: 2015-04-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 唐木, 清志 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00008337

「サービス・ラーニング（Service-Learning）」プログラムの開発原理 ～“Active Citizenship Today (ACT)”の場合～

A principle of Development on Service-Learning Programs
～In case of “Active Citizenship Today (ACT)”～

唐木清志

Kiyoshi KARAKI

(平成12年10月10日受理)

1 はじめに～ACTの特徴～

本論文の目的は、Constitutional Rights Foundation (CRF) と Close Up Foundation (CUP) の二つの非営利団体によって共同開発された“Active Citizenship Today (ACT)”という「サービス・ラーニング（Service-Learning）」¹プログラムの開発原理を明らかにすることにある。

ACTは高校を対象とした二冊（1994年に刊行）と中学校を対象とした二冊（1995年に刊行）の計四冊より構成される。二冊はそれぞれ、生徒が学習を展開する上で参考にする『フィールドガイド』と、教師がその生徒の学習を支援する上で参考にする『ハンドブック』から成る。

（つまり、高校用『フィールドガイド』『ハンドブック』と中学校用『フィールドガイド』『ハンドブック』の計四冊がACTのすべてである。²）ACTは「社会科（Social Studies）」の中で「サービス・ラーニング」を実践することを目的として開発された。つまり、ACTには社会科プログラムと「サービス・ラーニング」プログラムという二つの顔があることになる。ACTの最大の特徴は、学習プロセスの中心に「公共政策の研究（Study of Public Policy）」（生徒はある社会的な課題に対する公共政策を批判的に分析し、その分析に基づきながら、生徒なりの新たな公共政策を立案する）を位置付けていることである。この点より、ACTは社会科プログラムとして先ず説明される。しかし、筆者は、この「公共政策の研究」を通して「政策立案能力」を育成することは、社会科の専売特許ではないと考えている。つまり、この「政策立案能力」の育成は社会科と同時に「サービス・ラーニング」においても重要な目標の一つと位置付けられるべきなのである。この後で述べるが、今日「サービス・ラーニング」の主流をなす実践は、援助を必要とする人々（子ども、老人、障害者、ホームレス等）に生徒が直接援助の手を差し伸べる「直接的サービス（direct service）」である。しかし、「サービス・ラーニング」はそのようなわゆる「ボランティア活動」ですべてが言い尽くされるわけではない。生徒自身の手によって社会的な課題を明らかにし、その課題を分析し、コミュニティの住民の援助を得ながら最終的に課題解決のために有効な政策を立案・提案する。そのような「市民行動（civic action）」に似た活動こそ「サービス・ラーニング」で求める究極的な学習方法でないだろうか。

ファートマン（Carl I. Fertman）らは、「サービス・ラーニング」を、実際にコミュニティ

で展開されるサービス活動の性格より、「直接的サービス (direct service)」「間接的サービス (indirect service)」「市民行動 (civic action)」という三つのカテゴリーに分類する。³

「直接的サービス」とは「援助を必要とする人々との個人的な接触」を意味する。このタイプのサービス活動には、例えば、中学校 (middle school) の生徒が小学校 (elementary school) で特別な教育を受けている児童に対して「読みの学習 (reading)」を援助することがある。援助を必要とする人々と直接接觸することができ、またそうすることで直ちに有効感を味わえるために、このタイプのサービス活動が「サービス・ラーニング」では最も一般的なものとなっている。

「間接的サービス」には、例えば、「(福祉団体等のための) 資金集め (fund-raising)」「(ホームレスのための) 食料収集 (food collection)」等がある。つまり、援助を必要とする個人と直接接觸するのではなく、ある課題を解決するのに必要となる物資を集めることを通して、間接的にサービス活動と関わるのがこのタイプの特徴である。多くの場合、この活動はある団体や機関を援助することを目的としてなされる。日本で言えば、「赤い羽募金運動」や「ベルマーク集め」等がこれにあたるものと思われる。

「市民行動」は「民主的な市民的資質 (democratic citizenship) における活動的な参加 (active participation)」という視点を強調する。ファートマンらによれば通常このタイプの活動は二つの主要な活動場面に分割される。一つ目は選択した課題について「知る場面」、二つ目はその課題を解決するために「行動する場面」である。二つ目の「行動する場面」には、例えば、生徒がホームレスの住居を確保するために地方政府と交渉すること、生徒が麻薬・アルコール犯罪の危険性に対する住民意識を高めるためにキャンペーン運動を展開することがある。

先に述べた通り、ACT はこのうち「市民行動」の観点から開発されたプログラムである。また、ACT では次のような点も考慮している。「ACT は行動を通して市民的資質技能を学ぶ一つの方法となる。ACT においてあなたが学ぶ技能は、あなたが今日のコミュニティを改善する際に役立つ技能である。これらの技能はあなたの生活の至る所であなたを援助することになる。例えば、あなたの未来の教育において、あなたの職業において、そして民主社会における一人の市民として。」つまり、ACT は「政策立案能力」の育成を通して「市民行動」できる市民を育成するという市民的資質のための教育の側面だけでなく、様々な学習技能（調べる技能やまとめる技能等）を生徒に身に付けさせるという生涯学習の側面も併せ持っているのである。

今日、日本では「総合的な学習の時間」に関する研究が本格化しつつある。その中で、筆者は「サービス・ラーニング」を「アメリカ版総合的学習」と捉えている。それは、アメリカにおける「サービス・ラーニング」が日本の総合的学習を考える上で参考となる視点を提供できる、と考えるからである。ACT のような体系的なプログラムの開発が、今後日本においても必要となってくるだろう。そのような際に、ACT の理念及び内容が必ずや参考となるはずである。

2 CRF における市民参加としての「サービス・ラーニング」という考え方

CRF の理事 (executive director) であるクラーク (Todd Clark) は、CRF のスタッフとともに、1997年、「市民参加としてのサービス・ラーニング (Service Learning as Civic Participation)」という論文を発表した。まずこの論文を分析することで、ACT 誕生に至る開発者側の意図を探ってみたい。

彼らはまず “Times Mirror Center for the People and the Press” によるアメリカ市民の分析を引用する。「アメリカの選挙人は憤っており、自己の利益に关心を集中させ、政治になんら関心を持っていない。何千にも及ぶアメリカの選挙人へのインタビューにより次のことが明らかとなった。すなわち、彼らは現在のシステムに対して不満を抱いているが、その不満を解消するために、パブリックな政治的思考を行なうことや他の政治的解決策を進んで提案することに対してなんら明確な方向性を見出していない。」⁴このような傾向に対して、CRFは、「学校が市民の政治的無関心を中和し、市民の知識を改善し、市民参加を増大させるよう努めなければならない」と、学校教育の役割を提案する。しかしながら彼らによれば、「公民コース、政治コース、合衆国史コースが市民的資質のための教育 (citizenship education) として多くの学校カリキュラムに共通して存在する」にもかかわらず、それらは「教室における学習をコミュニティにおいて市民的技能を活用する場面に結び付けるようなプログラム」⁵とはなっていないのである。それは今日存在する学校が上記のような役割を果たしていないことを意味する。つまり、「公民コースや政治コースは市民参加にとって基礎となる知識・技能を提供することができるにもかかわらず、それらのコースについての感想をコース参加者に尋ねると、興味深くそれらのコースに参加した、あるいは学校の学習が活動的な市民参加のために役立ったと答えるアメリカ市民はほとんど存在しないのである。」⁶以上のように、今日の学校教育実践を批判的に分析する中から、ACTは誕生したのである。

CRFは学校教育に対して次のような提案を行なう。「手短かに言えば、もしわれわれが生徒に効果的な市民として演じることを期待するなら、われわれは市民が取るべきすべてのステップを含んだカリキュラムを生徒に提供しなければならない。理想的には、公民科プログラムは生徒の生活に関連し、社会が直面している現実の課題を取り扱い、市民的資質の技能（例えば、批判的思考、問題解決、プレゼンテーション、調査等）の実践を促し、生徒が学習した知識や技能を応用する場としてコミュニティを利用すべきである。」⁷「4 ACTの実際」ではACTの内容を紹介するが、正にACTの内容は「市民が取るべきすべてのステップ」より構成されている。

CRFでは「一つの解決策としてのサービス (Service as a Solution)」という考え方をする。つまりこうである。「コミュニティ・サービスは市民的資質のための教育を促進する。なぜなら、生徒は教室で獲得した技能をコミュニティで活用することによって市民として成長することができるからである。」⁸実はこのような考え方でCRFが至るには、ACTが完成する以前、つまり1980年代のプログラム開発に対するCRFの自己反省があった。CRFでは「サービス活動が青年とコミュニティにとって価値があることは明白であるが、それが本質的にあるいは自ずから市民的資質のための教育を構成するのではない」⁹と考える。これは、CRFが、1980年代に開発・実践した“*Youth Leadership for Action (YLFA)*”や“*Youth Community Service (YCS)*”といったCRFのボランティア・サービス・プログラムが不十分であったことを示している。その辺りをCRFでは「われわれの歴史はボランティア・サービス・プログラムから、効果的な市民参加にとって本質的である知識・技能・態度の育成を意図してサービスと学習を統合する『市民参加 (civic participation)』プログラムの方向へと徐々に変化を遂げてきた」と捉えている。ここで「『市民参加』プログラム」と呼んでいるものが、CRFが開発した「サービス・ラーニング」プログラム、すなわちACTのことにはならない。さらに、CRFは次のように述べる。「われわれはプロジェクトの開発を生徒に要求することで、社会的な課題の背後を研究することへ

と生徒を追い込む。スープキッチン（soup kitchen）で作業する生徒はなぜ人々がホームレスになったのかを考えることを始め、落書きをペンキで塗り消している生徒はコミュニティへの落書きの影響を探求することを始め、『(視覚障害者を対象とした)ビーツという音の野球(beep baseball)』をプレイする生徒は障害者に関連した政策を調査することを始め、植物を育てる生徒は様々なコミュニティ機関がどのように環境問題を取り扱っているかを検討することを始めた。」¹¹「サービス・ラーニング」はコミュニティにおいて生徒が「行動する」だけで成立するのではない。その活動に至る過程で、あるいは活動を進める過程で、生徒が取り上げた課題に對して「知ること」もまた重要な視点なのである。

CRFは1990年代に入り、三つの「サービス・ラーニング」プログラムを開発している。一つは本研究で取り上げているACTである。それは社会科カリキュラムとして開発された。残りの二つは“City Youth (CY)”と“Youth Task Force (YTF)”である。前者は、社会科、国語、理科、数学の学際的なカリキュラムとして開発されており、後者は教科外のカリキュラム（例えば、クラブ活動等）として開発されている。それぞれプログラム毎に特徴があるのだが、CRFでは次の四点わたってそれら三つのプログラムに共通点があると考えている。

第一に「技能の確立 (skill building)」である。¹²CRFが開発したプログラムでは、市民的資質に必要不可欠な技能の発達に重きを置いている。第二に「相互作用的学習方略 (interactive learning strategies)」である。¹³これは、生徒が知識・技能を獲得し、態度を形成する過程で、生徒間の交流を大切にしているということである。このタイプの学習方略には討論、シミュレーション、ロールプレイ等がある。第三に「コミュニティの資源の利用 (use of community resources)」である。¹⁴これは図書館や博物館といったコミュニティの施設を利用することだけでなく、生徒がコミュニティの機関・団体でボランティア活動をすることも意味する。そして、第四に「政策への焦点化 (policy focus)」である。¹⁵後述するように、ACTでは特にこの第四の視点を大切にする。CRFにとって、「個人が効果的な市民となるためには、彼は、社会がある課題に対処する政策をどのように立案するのかを理解しなければならないし、コミュニティの課題に対処することを目的とした開発された公共政策を評価する能力を持たなければならない」のである。

以上が、CRFがACT開発に至る経緯であり、CRFによるACT開発の意図である。

3 ACTの理念

(1) ACTを支える六つの要素

ACTは、次の六つの要素に支えられている。これら六つの要素を考慮しながら、CRFとCUPはACTを開発した。②の「公共政策の研究」は、先に述べた通り、ACTの特徴である。しかし、それを除く他の五つの視点は、すべての「サービス・ラーニング」プログラムに共通する要素である。それらは日本において「総合的な学習の時間」の単元開発をする際にも役立つ視点となる。

- ①学校に基づく「サービス・ラーニング」(School-based Service Learning)
- ②公共政策の研究 (Study of Public Policy)
- ③学校とコミュニティのパートナーシップ (Partnerships between Schools and Community)

- ④参加型学習（Participatory Learning）
 - ⑤認知的リフレクション（Cognitive Reflection）
 - ⑥もう一つの評価（Alternative Assessment）
- 以下、それぞれについて説明する。

「①学校に基づく『サービス・ラーニング』」¹⁶とは、「サービス・ラーニング」を学校カリキュラムに含み込ませる（infuse）ことを意味する。それはコミュニティにおけるサービス活動（生徒の行動〈student action〉）を教室における学問的な学習（学習指導〈school instruction〉）と結び付けることを意味する。また、このアプローチは、「近い将来コミュニティのメンバーとなる生徒が市民的資質（citizenship）を真に意味あるものとする」ためにも必要不可欠な視点である。生徒は「教科書、クラス討論、クイズ、テストといった伝統的な学習方法の利用からだけでなく、経験を振り返ることから（『⑤認知的リフレクション』）、実生活の経験の中で教科の内容を利用するだろう（『経験主義教育〈experiential education〉』）。さもなければ『為すことを通して学ぶ〈learning by doing〉』」。そのためにも、教師は、「生徒がコミュニティ・サービス・プロジェクトへの参加を通して市民の責任（citizen responsibility）の感覚を発達させた」ということを観察できるように、「生徒の学習や行動を評価するための新しい方法（『⑥もう一つの評価』）を発見し、利用する」ことに努めなければならない。

「②公共政策の研究」¹⁷は、ACT と他の「サービス・ラーニング」プログラムとを分かつ視点となる。ACT は他のプログラムと同様に「学校やコミュニティに影響を及ぼす現実的な課題、そしてそれらの課題への対処方法に注目することを生徒に要求する」。しかし、特に ACT では、生徒がその課題に対する解決策を決定する以前に、「まず公共政策の領域でその課題に対して何がなされているかを検討すること」を大切にする。ACT を通して、「生徒はどのように公共政策が開発されるのか、その開発過程でどのような人々や組織が関与しているのか、どのようにして異なる政策代替案が検討されるのか、さらには、政策の背後にはどのような利益や目的が存在するのか、等を学習する」。この学習を通して、生徒は「コミュニティにおける政府の役割を理解するとともに、政府に影響を及ぼす市民としての役割を理解するようになる」のである。それは「政策の分析を思慮深く行なえる市民こそ民主社会の礎（cornerstone）となりえる」という考え方に基づいている。

「③学校とコミュニティのパートナーシップ」¹⁸とは、コミュニティにおける生徒の活動が充実したものとなるよう、「生徒は地方政府との結び付きだけでなく、地方の企業、サービス機関、メディア、教会、非営利団体、他の地方グループとの結び付きを必要とする」という意味である。様々なグループが「ボランティアの機会、資金、ミーティングの場所、そして情報を提供することができる」。また同時に、学校とコミュニティのそのような結び付きが、「教室において情報を提供してくれる人々の確保、生徒のプロジェクトを公開すること（publicity）」をそれぞれ可能にするのである。「しばしば教師は『教室のドアを閉め（close the classroom door）』、教師や生徒を支援する価値ある情報がコミュニティに数多く存在することを忘れててしまう」。ACT では次のような提案を教師に行なう。すなわち、「あなたの教室にコミュニティを持ち込み、あなたの教室をコミュニティに持ち出しなさい」と。そうすることで、生徒は教師の支援の下、「コミュニケーションする技能やグループを組織する技能を改善することができ、また、コミュニティの情報提供者と接触し、彼らと積極的に関わることを通して、自尊心（self-esteem）を高めることができる」のである。

「④参加型学習」¹⁹は次のような考え方に基づいている。すなわち、「(試験を目的とした特定の教科内容といった) 学ぶべき内容 (what to learn) を学習する代わりに、(質問、リフレクション、経験、行動を通して) 学び方 (how to learn) を学習ことにより、生徒は退屈なものというよりはエキサイティングなものとして学習を見るようになり、また、学び続ける学習者 (lifelong learners) となるよう動機付けられるのである」。ACT で考える「参加型学習」の具体的な方法には、討論、ロールプレイ、シミュレーション、グループ活動、協同的学習(cooperative learning)、ブレインストーミング等がある。このような学習方法を経験することで、生徒は教科で学習される情報に対して継続的に関心を示すようになり、情報を我が物とし (own)、その情報を日々の生活経験で直接的に生かすことができるようになる。また、「参加型学習」における教師の役割は、「指導者 (mentor)、ガイド、コーチ、支援者 (facilitator)」である。つまり、教師には「講義、ワークシート、他の伝統的な教育方法を通して生徒に『答え (the answers)』を要求する代わりに、生徒が独力で答えを発見することを援助する」役割を演じることが要求されるのである。

「⑤認知的リフレクション」²⁰を、ACT では、「『サービス・ラーニング』の礎 (cornerstone)」と捉えている。この視点の有無により、「サービス・ラーニング」とコミュニティ・サービス (community service) が区別される。「サービス・ラーニング」には、「リフレクションのための非形式的でボランタリーな時間だけでなく、リフレクションと討論に必要な形式的に組み込まれた時間と場所が存在する」。これは「サービス・ラーニング」プログラムを開発する際に、「構造的リフレクションのために計画された時間 (planned time for structured reflection)」が大切されることを示している。つまり、「カリキュラムの内容領域とサービス活動とを生徒が結び付けている過程」で、彼らには継続的なそして意識的なリフレクションが要求される。「⑤認知的リフレクション」は大きく「集団リフレクション」と「個人リフレクション」に分けられる。前者の具体的な方法論には討論やロールプレイ、後者にはジャーナリングやプレゼンテーション等が考えられている。

「⑥もう一つの評価」²¹とは、「選択肢や○×といった伝統的な試験とは異なる評価の技法」を意味する。今日「もう一つの評価」は教育改革運動の一部をなし、具体的には、「ポートフォリオ評価 (portfolio assessment)」「真正な評価 (authentic assessment)」「デモンストレーション (demonstrations)」として理論化されつつある。「もう一つの評価」を支える思想には、「生徒に何かを『為すこと』を要求する」「生徒の問題解決技能や高次の思考技能 (high-order thinking skills) を発達させる」「『現実世界 (real-world)』への転移が大切にされる」「教師に新しい学習指導の役割が期待される」「唯一の『正しい (right)』答えは存在しない」等がある。また、具体的な方法としては、「ジャーナル」「マルチメディア・プレゼンテーション」「口頭のプレゼンテーション」「自己評価」「行動評価書 (生徒の行動を接触した人々がチェックシートに評価すること)」「チェックオフシート (活動計画が予想通りに進められたかどうかを生徒がチェックすること)」等がある。

以上六つの要素をプログラムの中に取り入れるながら、ACT は開発された。ACT は極めて体系的なプログラムであり、意図的な試みなのである。

(2) ACT を実行する際の注意事項

また、ACT には、学習を進めるにあたって、教師が次の九つの点に留意すべきことも併せて

述べられている。日本では「アメリカの教育実践」について「自由で、すべてを子どもに任せている」という印象をもつ人が多いようである。しかし、実際には次のような様々な点に留意しながら実践は進められる。特に、子どもの安全や保護者の理解・協力には日本以上に気をつかっていることがわかる。事前の準備は非常に大切なのである。

第一に「保険と責任（insurance and liability）」²²である。ACTでは生徒による様々なサービス活動がコミュニティにおいて展開される。それは生徒が学校外へ出かけることを意味する。そのような活動には当然危険が伴なう。教師あるいは学校はそのような危険に対して責任を負う義務がある。事前に危険を回避する努力は当然であるが、予測不可能な事故に対しても予め対応を考慮しておく必要がある。そのためにも、「学校保険（school insurance）」の適用範囲を再確認し、もし必要ならば他の保険に加入すべきである。また、生徒がサービス活動の中で過失を犯す可能性もある。その点にも十分注意を払うべきである。

第二に「保護者の許可（parental permission）」²³である。生徒がボランティアとして様々な活動に参加する場合には、保護者の許可が必ず必要である。ACTプロジェクトを開始する以前に、保護者に許可書のサインを要求する。つまり、保護者に生徒の学校外活動に対して許可を願うべきである。

第三に「保護者の援助（parental support）」²⁴である。許可書を送るのと同時に、教師は保護者や近隣者に対してACTを説明した手紙を送り、場合によっては教師と保護者があるいは保護者同士がACTについて議論するミーティングを組織すべきである。また、保護者はACTプロジェクトにとって重要な資源となる。保護者の中には地方政府や非営利団体で働く者もいるだろう。加えて、教師は「もう一つの評価」に対する説明を保護者に行なうべきである。多くの保護者はテストの点数のみで生徒を評価することに慣れている。この機会に教師は保護者に「サービス・ラーニング」を始めとする新しい教育方法を知ってもらうと良い。「これは積極的な学校と家庭との関係を建設し、学校に対する保護者の関与と援助を推進させるすばらしい機会となるだろう」。

第四に「安全の問題（safety issues）」²⁵である。ACTのすべてのステップにおいて、生徒の危険性を最小限にとどめる努力がなされなければならない。もし生徒が危険な場所に出向き、あるいは危険をともなう活動をするなら、教師は生徒との間でルールや手続きの確認をするべきである。通常生徒は教師あるいは保護者の監視下で作業を行なう。あるいは、学校外で作業する場合には、一組のペアやグループになるべきである。

第五に「移動（transportation）」²⁶である。インタビュー、調査、見学をする場合、どのように生徒は学校からその場所へ移動するのか？スクールバスの手配はできるか？保護者は車を出すことができるか？教師は校長とともに移動に関して再確認を行なうべきである。

第六に「生徒の準備（preparation of students）」²⁷である。生徒に学校外で活動する際の留意点を確認させる必要がある。コミュニティで活動する際には、生徒は服装や言葉使いに注意しなければならない。また、老人ホームやホームレス・シェルターといった、生徒にとって新しい場所では、特に準備が必要となるだろう。そのような場での生徒の不安を解消するためにも、生徒同士が話し合う機会を、教師は与えるべきである。

第七に「生徒の適応（student adjustment）」²⁸である。生徒はすぐにでもプロジェクトを開始したいと考えるだろう。そのような場合に、生徒は注意深い準備の必要性を感じないかもしれない。しかしながら、もし適切にリフレクションの時間が導入されるなら、生徒は準備が非

常に大切であり、結果的に、それが彼らの作業をし易くすることを知るだろう。彼らはリフレクションの時間に、たくさん書き・話すことを要求される。それは、他者と競争することの代わりに、協同して作業することを要求することもある。また、場合によっては、大人たちとの交流も要求される。「生徒の準備」が学校外で作業する際のルールやマナーに関する事柄であるのに対して、この「生徒の適応」ではプロジェクトそのものに適応することに対応したものである。

第八に「資源の最適な利用 (optimal utilization of resources)」²⁹である。コミュニティの資源を最大限利用するためにも、教師は可能な限り情報を集めなければならない。地方新聞の講読予約をすること、また、生徒や保護者に地方新聞の購読を勧めることが教師には必要とされる。また、その他にも、教師は様々なコミュニティの人々と接触を持つことが必要である。例えば、メディアの記者、地方ビジネス、地方政府機関、非営利団体などと教師は接触しなければならない。さらに、資源のネットワークを築くためにも、教師は保護者、近隣の住民、友人と話すことが必要である。

第九に「態度チェック (attitude check)」³⁰である。教師もそして生徒もオープンマインド、ユーモアの感覚、発見の感覚を維持することが大切である。ACT はすべての者にとって新しい経験である。通常新しい経験に適応するためには時間を必要とするだろう。しかし、生徒はその適応の段階も楽しむにちがいない。

これらはすべて事前の準備に関する事柄である。

4 ACT の実際

(1) ACT の全体像

ACT の全体像を理解するために、ここでは、ACT がどのような目標観に立ち、どのような能力を生徒に身に付けさせたいと考えているかを、先ず明らかにする。(図表 1 参照)。次に、ACT が実際にどのような学習プロセスを通して進められるのかを明らかにする。ACT の学習プロセスは大きく五つのステップに分けられる。それは、市民が「市民行動」を起こす際に必ず辿らなければならないステップである、と ACT では考えられている。この全体像を示した上で、次の「(2) ACT の学習プロセス」では、ACT の内容を実際に示していこうと思う。(図表 2 参照)。

ACT では、次頁の図表 1³¹の目標観・能力観に立っている。この図表 1 は、中学校用『ハンドブック』に載せられたものである。ここには、ACT の「目標」と、ACT で育成することのできる「学習成果」が示されている。学習成果を「知識」「技能」「態度」の三つの視点から表現する方法は、伝統的にアメリカ社会科で取られてきたものである。ここで用いる「技能」という言葉は日本のそれよりも意味内容が広く、「問題解決能力」や「批判的思考能力」等もその中に含まれる。つまり、アメリカ社会科では「問題解決技能」や「批判的思考技能」という言葉の使用が日常的ななされているのである。

目標の一つ目の視点は、「サービス・ラーニング」が体験的な活動だけで成立するのではなく、取り上げた課題に対する深い研究に基づいて成立することを示している。また、ACT が国家的あるいはグローバルな規模での学習ではなく、コミュニティにおける学習に限定していることも示している。第二の視点は、繰り返している通り、ACT が公共政策の研究に焦点を絞っていることを示している。それは、次の「(2) ACT の学習プロセス」で紹介する、ACT の学習プロ

セスからも理解できることである。そして、第三の視点は、「サービス・ラーニング」がアメリカ市民の個人主義化傾向に歯止めをかけることを目的として注目されたという事実に関連する。「コミュニティに奉仕すること」はアメリカ民主主義の根幹であり、したがって、「サービス・ラーニング」を通してアメリカ民主主義を再建しようとする意図が、「サービス・ラーニング」の背景には存在するのである。

【図表1】 ACT の目標と計画される生徒の学習成果

目標：

- ACTへの参加を通して、生徒は：
- ◆コミュニティについて学習し、また、コミュニティの状況を改善することに最も効果的である人々・プロセス・機関について学習する。
 - ◆政治生活とコミュニティ生活のあらゆる場面における政策立案プロセスに効果的に参加するために必要な社会的・政治的・分析的技能を身に付ける。
 - ◆共通善（the common good）に対して生涯にわたって奉仕するという態度を彼ら自身の中にそして仲間の間に育てる。

生徒の学習成果：

上に述べられた目標に到達することで、ACTに参加する生徒は次の学習成果を獲得することができる。

知識（Knowledge）

生徒は：

- ◆有能で参加する市民の様々な特徴や行動を認識する。
- ◆彼らが生活するコミュニティが何であるかを明らかにし、それについて述べる。
- ◆地方の問題、そして、その地方の問題と州・国家レベルの問題との関連性が何であるかを明らかにし、それを定義し、それについて述べる。
- ◆公共政策の開発・意味付け・評価に影響を及ぼす要素と機関を説明する。
- ◆一個人がコミュニティの諸問題を解決するのに役立つことができる様々な方法を知る。

技能（Skills）

生徒は：

- ◆効果的な質問を開発し、使用する。
- ◆多様な一次・二次資料から情報を獲得し、それを解釈する。
- ◆客観的妥当性・正確性・観点から情報を調査分析し、評価する。
- ◆社会諸問題の解決を援助する効果的な努力に情報を応用する。
- ◆個人的な行動の結果、そしてその行動に対する適切な文脈を評価する。
- ◆理知的で責任のある決定を下すために、批判的思考技能や倫理的推論を発達させ、それを使用する。
- ◆効果的で合理的な様式で理念・事実・意見を伝達するコミュニケーション技能を発達させ、それを使用する。
- ◆他者と協同的に作業する。
- ◆個人的利益と共有された利益を効果的に擁護する。

態度（Attitudes）

生徒は：

- ◆人間の多様性を認識し、尊敬する。
- ◆コミュニティの擁護者の役割において個人的政治的有効感を発達させる。
- ◆個人の権利と自由は責任によってバランスが保たれるということを信じる。
- ◆サービスの価値とコミュニティに継続的に関与することの重要性をそれぞれ彼ら自身の中に育てる。

次に、具体的にACTがどのような構造になっているかを紹介する。生徒用『フィールド・ガイド』も教師用『ハンドブック』も、当然のことながら、両者ともに五つのステップより構成される。なお、各ステップは「章」として示されている。つまり、第1章は第1ステップを意味する。

第1章のテーマは「あなたの生活している場所はどういうところか?」である。それは次のように説明される。「この章であなたはコミュニティの簡単な調査をする。あなたが生活する場所の大きな絵を描くためにこの章を利用しなさい。あなたはまったく新しい方法であなたのコミュニティを理解するだろう。あなたのコミュニティは単なる場所ではない。それは興味深い人々、価値ある情報源、数多くの問題で満たされている。」生徒はコミュニティを調査し、コミュニティが抱える課題とコミュニティが有する資源に関する情報を得る。

第2章のテーマは「どんな問題が存在するか?」である。それは次のように説明される。「この章であなたはあなたのコミュニティあるいは学校の諸問題についてより深く探求し、学習する方法を知る。刑事のように捜査するためにこの章を利用しなさい。問題の原因は何か?それはどの程度深刻なのか?われわれはそれに関して何かをすることができるのか?」生徒はアンケートやインタビューを行ない、コミュニティの課題を一つに絞り込む。その上で、その一つの課題に関する研究を進める。

第3章のテーマは「誰が何をしているか?」である。それは「この章であなたは権力・政治・計画・政策という本当の世界に引き込まれる。あなたのコミュニティでなされている物事に関与している人々(行政・ビジネス・メディア・非営利団体に関与している人々)と連絡をとるためにこの章を使用しなさい。おそらく、彼らはあなたが感心のある課題を取り扱うことを見助してくれる。」と説明される。生徒は選択した課題に対してどのような政策が考えられ、実施されているかを、コミュニティで生活する様々な人々との話し合いの中で明らかにする。

第4章のテーマは「あなたは何をすることができるか?」である。それは「この章であなたは数多くの選択肢、あるいはコミュニティの出来事に対して活動的な役割を担っている異なる方法を提示される。物事を引き起こすために有効な道具と情報の取り合わせをこの章で見つけなさい。」と説明される。生徒は自分たちにできる、課題解決の方法を検討する。のために、この章では、署名・プレゼンテーション等の様々な方法論が参考のために提示される。

第5章のテーマは「あなたは何をするつもりか?」である。それは「この章であなたは計画を立て、その計画を行動に移し、その行動を継続させる方法に関する知識を提供される。あなたのACT計画を行動に移すためにこの章を利用しなさい。」と説明される。生徒は課題解決のためのプロジェクトを計画し、実施する。実施後にリフレクションを行なうのも、このステップの重要な要素である。

(2) ACT の学習プロセス

ACTの実践は、上の五つのステップに沿って実践される。基本的に、ACTはグループ活動として展開される。それは、大人の世界における「市民行動」が実際にはこのグループ活動の形態を探るからである。同じ利益・関心を有する人々がグループを作り、公共政策を立案しながら、それを社会に提案していく。それが「市民行動」である。そのような社会で実際に役立つ技能を、グループで活動しながら学び取っていくのが、ACTの特徴でもある。

五つのステップをさらに細分化した、実際のACTの内容を次に示す。(図表2)。180頁にも及ぶ中学生用『フィールドガイド』を12頁程でまとめたので、多少分かりづらいところがあるかもしれないが、大まかな流れは掴めるだろう。これは一つの事例であり、ACTの中でも実際にすべてこの通りに学習が進行するわけではない。しかし、「サービス・ラーニング」の全体像を掴んでもらうためにも、また日本の「総合的学習の時間」の参考とするためにも、ここでは多少長くなるが掲載したいと思う。

【図表2】 ACT の学習プロセス

<p>第一章：あなたはどこに住んでいますか？あなたのコミュニティを見ること。（Where Do You Live? Looking at Your Community）</p> <p>現在1：あなたのコミュニティを描くこと (The Present: Drawing Your Community) (あなたのコミュニティを述べる一つの方法は、コミュニティの絵を描くことである。あなたはこれを一人あるいはグループ活動として行なうことができる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) リストを作りなさい。(あなたのコミュニティを構成するすべての事物のリストを作りなさい。) (2) 教具を用意しなさい。(マーカーと大きな紙を用意しなさい。) (3) 描きなさい。(紙の上にコミュニティの絵を描きなさい。その際(1)のリストに含まれるすべての事物を描くこと。 また、見たり、聞いたことを言葉として絵に加えなさい。) (4) 新しい事物を加えなさい。(教室の壁にあなたの絵を貼りなさい。あなたの絵を他の人の絵と比較して、新たに加えるべきコミュニティの事物を探しなさい。そして、それをあなたの絵に加えなさい。絵を壁から剥がしたら、それをあなたのファイルに保管しなさい。) <p>現在2：道順に沿って調査すること (The Present: Searching Along the Way) (あなた達はそれぞれコミュニティの異なる場所に住んでいるので、あなたと他のグループ構成員はおそらく家から学校まで異なるルートに沿って通学している。したがって、あなた達はおそらくコミュニティの異なる形態を見ていることになる。それがあなた達の異なる見方 (different points of view) である。コミュニティのより大きな絵を描くために、家から学校までのあなたの見方と他のグループ構成員の見方とを結合しなさい。)</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 地図を見つけなさい。(教師からコミュニティの地図を手に入れなさい。その地図にはあなたの学校が含まれているべきである。) (2) あなたの学校とあなたの家を見つけなさい。(第1に、地図の上にあなたの学校を見つけなさい。第2に、あなたの住んでいる家を見つけなさい。第3に、あなたが毎日通っている通学路を辿り、あなたの家とあなたの学校を結び付けなさい。) (3) 道順に沿って調査すること。(家から学校へあるいは学校から家へ調査する間、あなたは四方八方を見渡しなさい。そして、見た事物のリストを作りなさい。) <p>○ビジネス：異なる商店・レストラン・工場を探しなさい。</p> <p>○問題：あなたはどんな種類の問題を見つけましたか？(修繕を必要とする、乱雑に散らかっている、落書きのある、犯罪が起こっている、貧困である、ホームレスが生活する通りを探しなさい。)</p> <p>○メディア：ラジオ塔とテレビ塔を探しなさい。書店や新聞販売店を探しなさい。</p> <p>○政府関係者と政府関係機関：市役所や図書館のような公共施設を探しなさい。警察官・消防署員・道路整備員を探しなさい。</p> <p>○異なる人々：異なる年齢・人種・文化の人々を探しなさい。あなたは彼らをどこで見かけ、彼らについてどのように感じたか？</p>
<p>過去1：写真による調査を実施すること (The Past: Making a PhotoSearch) (一枚の写真は1,000の言葉ほどの価値がある。過去の写真を得るために学校とコミュニティを調査しなさい。できる限りたくさん写真を集めなさい。)</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 物理的な特徴。(自然環境と人間が作り上げた環境の写真を探しなさい。) <ul style="list-style-type: none"> ○自然の特徴がコミュニティを形作っているか？(ヒント：川・山・丘・湖・海を探しなさい。) ○人々はどんな特徴を作り上げたか？(ヒント：橋・建物・道路・水路・港・鉄道を探しなさい。) (2) 人々。(コミュニティにかつて生活していた人々の写真を探しなさい。) <ul style="list-style-type: none"> ○そこにインディアンは生活していたか？あなたは彼らの写真を発見することができるか？ ○40年前の若者の写真を探しなさい。彼らはどんな衣服を着ていたか？彼らはどんな種類の音楽を好きだったか？ (3) ビジネス (コミュニティの古い工場・レストラン・商店の写真を探しなさい。) <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティにビジネス街と呼ばれる場所が存在するか？それはどこにあるか？ビジネス街の写真を探しなさい。 (4) メディア (新聞社・ラジオ局・テレビ局の形跡を探しなさい。) <ul style="list-style-type: none"> ○20年前の新聞にはどんなニュースが印刷されているか？40年前は？100年前は？(ヒント：図書館で古い新聞を探しなさい。) (5) 政府 (あなたの学校・市役所・消防署の写真を探しなさい。) <ul style="list-style-type: none"> ○公立学校第1号はどこにあったか？警察署は？市役所は？ <p>過去2：歴史に関するインタビュー (The Past: A Talking History Interview) (コミュニティに長く住み続けている人々にインタビューしなさい。それは長ければ、長いほど良い。彼らはあなたが歴史の本で発見できなかった物語を話すことができる。老人たちは過去についてたくさんことを知っている。あなたには老人の知り合いがいるか。コミュニティについて知っている人々を探すために次のことをしなさい。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校を探しなさい。あなたの教師の中には20年以上教えている教師がいるか。 ○あなたの家族に尋ねなさい。20年あるいはそれ以上過去のことを覚えているかもしれない。 ○あなたの近所の人に尋ねなさい。 ○商店や他のビジネスで働いている人々のうちの何人かは20年以上コミュニティで働き続けているかもしれない。 <p>未来：未来の学校を想像しなさい (The Future: Imagine a FutureSchool) (あなたは未来を見ることができるタイムマシンを開発した時のことを想像しなさい。あなたの学校はどのようにになっているだろうか。グループの構成員と一緒にブレインストーミングをしてみなさい。そして、あなたの学校の未来予想図を作り上げるために下の質問に答えなさい。)</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 名前。(いくつかの学校はケネディ大統領やマーチン・ルーサー・キング牧師のような人々にちなんで名づけられている。) <ul style="list-style-type: none"> ○あなたは未来的学校をどのように名づけるか？それはなぜか？ (2) 人々。(どんな年齢の集団が未来的学校に通学するか？どんな種類の若者が通学するか？) <ul style="list-style-type: none"> ○あなたは生徒がすべて同じであることを望むか？あるいは、あなたは異なる年齢・文化・人種の生徒と一緒に学習し、生活することを望むか？それはなぜか？

- (3) 政府。(あなたの学校は政府をもっている。それはちょうどあなたのコミュニティと同じである。)
あなたは未来の学校の政府に何を望みか？(ヒント：政府の主たる仕事は決定を下し、人々を援助することである。)
- (4) ビジネス(あなたは未来の学校を運営するためにどのように資金を獲得するか？)
学校はすべての若者に対して無料であるべきか？
- (5) メディア(あなたは未来の学校においてどのようにコミュニケーションするか？)
あなたの学校はどんな種類のコミュニケーション技術を持っているか？ビデオ・学校新聞・本・コンピューターはどうか？

第二章：何が問題なのか？一つの問題に焦点を絞ること (What's the Problem? Focusing on an Issue)

ブレインストーミング(Brainstorming) (第一章ではあなたはあなたが住んでいる場所についてたくさんのこと学んだ。おそらく、あなたはコミュニティに存在する諸問題についてたくさんことを知った。今やそれらについて考え始める絶好の機会である。諸問題について考え始めるための一つの方法は、ブレインストーミングすることである。)

- (1) 間違いは存在しない。(遠慮なく話しなさい。どんなに「ばからしい！」と思っても、すべての提案が良い提案である。)
- (2) すべてのアイデアを書き留めなさい。(忘れないように、キーワードを利用して書き留めなさい。)
- (3) 可能な限り多くの考えを出しなさい。(できる限り早く作業をしなさい。)
- (4) お互いの考えを結び付けなさい。(例えば、「犯罪」と「落書き」が結び付けられるかもしれない。)

コミュニティの問題のリストを作ること (Cooking up a Community Problem List) (学校あるいはコミュニティにおいてどのような種類の問題があなたを悩ましているか？問題領域のリストから、ブレインストームを始めなさい。)

- (1) 教育。(あなたはおそらく学校に関して強い関心を持っている。あなたの学校にはどんな問題があるか？)
- (2) 犯罪。(犯罪は大きな問題を引き起こす可能性がある。犯罪はあなたとコミュニティにどのように影響を及ぼしているか？)
- (3) 社会問題。(すべての者は食物・住宅・医療等を必要とする。コミュニティのすべての人々がこれらの基本的な必要物を享受しているか？)
- (4) 経済。(仕事や収入がないなら、コミュニティはひどい目にあう。あなたのコミュニティはどのような経済的な問題に直面しているか？)
- (5) 健康と安全。(ほとんどのコミュニティが麻薬・10代の妊娠・火事や水害といった自然災害に関する問題を持っている。どのような健康と安全に関する問題にあなたのコミュニティは直面しているか？)
- (6) 都市の荒廃。(大きな都市には数多くの落書き・ごみ・廃墟が存在する。あなたの学校やコミュニティはそのような問題に直面しているか？)
- (7) レクリエーション。(すべての者が清潔で緑の多い場所に住みたいと願っている。あなたのコミュニティは十分な公園やレクリエーション・プログラムを持っているか？)
- (8) 集団間の葛藤。(異なる人種・文化・宗教に属する人々の間には葛藤がある。あなたの学校やコミュニティはこの問題を抱えていないか？)
- (9) 環境。(あなたは環境〈空気・土壌・水・野生動物〉に関心を持っているか？あなたのコミュニティはどんな環境問題を抱えているか？)
- (10) 他の問題。(コミュニティはどんな問題に直面しているか？ブレインストームを終えた時、最も重要だと考える問題を書き留めなさい。)

一つの問題を選択すること (Choosing a Problem) (だれもあなたにどの問題に関して作業すべきかを教えてくれない。あなたとグループの構成員は自分自身でそれを決定しなければならない。たくさんの時間を取りなさい。そして、何度も考えなさい。すべての問題に注意を向こうとするな、ということを覚えておきなさい。一つの問題に焦点付けてなさい。)

- (1) この問題はあなたの生活に関係しているか？(あなたはおそらくあなたの生活の一部である問題に関して最も良く作業するだろう。)
- (2) この問題は他の人々の生活に触れているか？(より多くの人々がある緊急の問題に関して作業することを望んでいるだろう。)
- (3) この問題は作業することが楽しいだろうか？(退屈なプロジェクトに対して作業することを望む人は誰もいない。どんな問題があなたに最も多くのことを教えるだろうか？もしあなたがたくさんのこと学習できるなら、継続的にあなたはより良く作業するだろう。)
- (4) あなたは実際にこの問題に関して何かをすることができるか？(例えば、ホームレスを助けることは一つのすばらしい考え方である。しかし、あなたはホームレスの問題に対して一つの作業すべきであって、すべての作業をするのではない。)

問題を絞り込むこと (Narrowing down the Problem) (ブレインストームはあなたが問題を絞り込むを援助する。あなたはある問題のより細かい部分に目を向けるようになる。それを可能にするために、「原因」「影響」「オリジナルな問題の副次的な問題」を明らかにしなさい。新しい紙の中央にそれを書き、再びブレインストームを始めなさい。)

- (1) 問題の原因をブレインストームしなさい。
- (2) 問題の影響をブレインストームしなさい。(あなたが選んだ問題は人々とコミュニティにどのような影響を及ぼしているか？)
- (3) 副次的な問題をブレインストームしなさい。(このブレインストームの目的はより小さな破片にその問題を分解することにある。)

調査すること (Conducting a Survey) (あなたは学校あるいはコミュニティにおける問題を観察した。あなたは本当に関心のある問題に焦点を合わせた。次の課題は「あなたはこの問題について何〈something〉をすることができますか？」というものである。他の人々に尋ねるような調査を行ないなさい。調査は学校あるいはコミュニティの他の人々が問題についてどのように考えているかをあなたに教えてくれる。)

- (1) 教師に尋ねなさい。
 - 社会科教師は、あなたが調査のトピックを選択することを援助する。
 - 国語教師は、あなたが調査の質問を書くことを援助する。

<p>○数学教師は、あなたが調査結果を分析することを援助する。</p> <p>(2) 調査内容を決定すること</p> <p>○多項選択式あるいは「はい・いいえ」の質問を作りなさい。(多項選択式あるいは「はい・いいえ」の答えは数えることが容易い。)</p> <p>○K.I.S.S. (調査を手短で単純なものにしなさい) <Keep It Short and Simple>。あなたの質問は理解することが容易いか? それらは答えることが楽しいか? 長い調査は飽きてしまう。)</p> <p>○ヒントなし。(答えを与えるな。(例: あなたは学校の壁の醜い落書きは学校の精神にとって良いあるいは悪いのどちらだと思いますか? 「醜い」という言葉は、あなたが「落書きは悪い」ということを人々に伝えていることになる。))</p> <p>○個人的なことを聞くな。(例: あなたは学校の壁に落書きを描きたいか? だれも「はい」とは言わない。それはトラブルの元である。)</p> <p>○長い答え。(あなたはより長い答えを要求する質問を尋ねたいかもしれない。例えば「あなたは落書きの問題を解決するために何をなすべきだと考えますか?」。このような質問は重要である、しかし、その質問に単純に「はい・いいえ」で答えることはできない。)</p> <p>(3) 調査を試験すること</p> <p>○質問を理解できるか?</p> <p>○あなたの質問は公正だと思うか? さもなければ、偏見があるか?</p> <p>(4) 調査を実施すること。</p> <p>○説明。(自己紹介しなさい。どの学校に通学しているか伝えなさい。なぜあなたが調査を実施するのか説明しなさい。その人があなたの調査のために数分費やしてくれるかどうか尋ねなさい。)</p> <p>○議論するな。(もしもある人があなたの調査に協力したくないなら、強制してはいけない。他の人に尋ねなさい。)</p> <p>○名前を尋ねるな。(名前ではなく答えを必要としているということを人々に話しなさい。彼らはより自由にあなたの質問に答える。)</p> <p>○構造化しなさい。(調査の際にクリップボードを利用しなさい。ペンや鉛筆を用いること。)</p> <p>○彼らに感謝しなさい。(彼らが去るとき、その協力を感謝しなさい。)</p> <p>○今。後ではない。(その場で調査に協力できる人を見つけなさい。調査票を与えて、後でそれを回収しようと思っても無理である。)</p> <p>○礼儀正しくしなさい。(あなたの質問に答えている人々は、あなたに尽力している。)</p> <p>○二度チェックしなさい。(調査を終えた時、彼らがあなたの質問にすべて答えたかどうか確かめなさい。)</p>	<p>知は力である (Knowledge is Power) (あなたが問題について知れば知るほど、ますますあなたのプロジェクトは良くなる。知識をともなった力を作りなさい。もしあなたがある問題についてたくさんのことを探っているなら、あなたはなぜその問題が重要なかを他の人々に示し、その問題について何をなすべきかを明らかにできる。あなたが学校あるいはコミュニティの問題を取り扱う時、あなたはすでに専門家である。なぜなら、あなたは学校あるいはコミュニティにおいて毎日食事をし、睡眠をとり、作業をし、そして遊んでいるからである。あなたはある問題についてすでに何を知っているか。あなたが次の質問について議論できるよう教師に援助を求めなさい。)</p> <p>○あなたは学校あるいはコミュニティの問題をどのように述べるか?</p> <p>○この問題はあなたの学校あるいはコミュニティを痛めつけていているか?</p> <p>○この問題はあなたに学校あるいはコミュニティに関するどのような感情を抱かせるか?</p> <p>○この問題はお金を浪費し、資源を無駄にしていないか。どのように?</p> <p>○あなたはすでにこの問題を取り扱おうとしている学校あるいはコミュニティの人々を知っているか。それは誰か?</p> <p>○もしこの問題が解決されないなら、未来に何か起こるか?</p> <p>○あなたはこの問題について他のことを知っているか。</p> <p>(あなたがすでに知っていることを共有することによって、あなたは最も重要な情報源、すなわち知識を築き上げができる。グループファイルにあなたがすでに知っていることを加えなさい。あなたはどこに行けばより多くの知識を見つけることができる。あなたは事実 <the facts> を見つける必要があるか。次の方法を利用することによって、ある問題の事実を探求することができる。)</p> <p>○図書館を調査すること</p> <p>○メディアを調査すること</p> <p>○専門家にインタビューすること</p> <p>○インターネットを利用すること</p>
<p>図書館を調査すること (Searching the Library) (あなたの情報航海を始める時がきた。図書館はほとんどすべての問題についての豊かな情報源となりうる。ここでは、あなたが図書館から多くのことを得ることができるよう、いくつかの助言をしよう。)</p> <p>○何を学ぶ必要があるのかを知りなさい。(「あなたは学校あるいはコミュニティの問題をどのように伝えるか?」に関して記述することは、あなたがどのような主題を取り扱っているか、そして図書館の職員に何を尋ねるべきかを明確にするのを援助する。)</p> <p>○クリック・アンサー・サーチ。(リファレンス・ブック <reference book> あなたの主題を探しなさい。例えば、もしあなたが公害について関心があるのなら、百科事典 <encyclopedia> で「公害」あるいは「環境」の項目を探しなさい。他のリファレンス・ブックには辞書 <dictionaries>・地図 <atlases>・年鑑 <almanacs> がある。)</p> <p>○それはあなたの図書館である。(学校図書館と公共図書館はあなたを援助するために存在する。本やコンピューターを役立てなさい。)</p> <p>○本を探すこと。(図書館カードあるいはコンピューター・インデックスを見なさい。たとえあなたが著者や本のタイトルを知らないとも、あなたは主題によって本を探すことができる。有益な本を発見したら、同じ主題のところにある他の本もチェックしなさい。)</p> <p>○気を配りなさい。(あなたはどこで情報を発見できるかわからない。時々最高の本があなたの探している本のとなりに眠っている。)</p>	

<p>○図書館の職員に尋ねなさい。(図書館の職員は偉大なパートナーである。彼らはどこをどのように探せば良いかを知っている。図書館に行ったら、レファレンス・デスクを訪ねなさい。あなたが何を探しているかを説明しなさい。)</p> <p>○雑誌と新聞。(定期刊行物は情報を探すのには良い場所である。あなたの問題に関する新聞記事あるいは雑誌記事を発見するために、定期刊行物インデックスを見なさい。)</p>
<p>メディアを調査すること (Searching the Media) (新しい話題はコミュニティの問題についてより多くのことを学ぶ際に有益な道具となりうる。新聞を読みなさい。新聞記事は通常何・誰・いつ・どこ・どのように問い合わせて答えていた。)</p> <p>○新聞の講読契約をしなさい。(グループの構成員と一緒に、一ヶ月間、地方新聞の講読契約をしなさい。)</p> <p>○放送電波をチェックしなさい。(地方ラジオ局と地方テレビ局があなたの問題を取り扱っているかもしれない。注意を払ってください。)</p> <p>○ニュース・ファイルを嗅ぎ回りなさい。(公共図書館は地方新聞から取り出した地方の課題に関するファイルを保存している。)</p> <p>○パートナーとしての記者。(地方新聞社、地方ラジオ局、地方テレビ局の記者は問題に関する記事を書いている。)</p>
<p>専門家に尋ねなさい。(Ask an Expert) (あなたはコミュニティの過去・現在・未来を調査した。あなたは学校あるいはコミュニティの問題を見た。あなたはより多くのことを発見するために図書館へ旅をした。あなたはニュースをチェックした。あなたはニュース記者と話したかもしれない。あなたはコミュニティの問題についてたくさんのことを行っている。しかし、もしもあなたが専門家に尋ねるなら、あなたは得ることのできるたくさんの情報を驚くだろう。多くの専門家は知っていることを若者に進んで教えるとする。)</p> <p>○家。(コミュニティの問題について詳しい人々を知っているかあなたの家族に尋ねなさい。)</p> <p>○政府。(政治家はコミュニティの課題についてしばしば生徒と話すだろう。)</p> <p>○ビジネス。(ビジネスの人々は学校あるいはコミュニティの問題に関心があるかもしれない。)</p> <p>○メディア。(学校あるいはコミュニティの問題について記事を書いたあるいは研究した記者は専門家である。)</p> <p>○非営利団体。(これらの人々はコミュニティの問題についてあなたと話すことができる。)</p>
<p>パネルディスカッションを組織しなさい。(Holding a Panel Discussion) (専門家から学ぶ良い方法一つは、彼らを招待し、パネルディスカッションを行なうことである。教師に援助を求めなさい。)</p> <p>○三人を選べ。(問題についていくつかのことを知っており、援助して欲しいと思う三人のコミュニティの住民を選びなさい。)</p> <p>○日程・時間・場所を設定しなさい。(彼らは忙しい。学校を訪問し、あなたと話すことができる時を彼らに尋ねなさい。)</p> <p>○何を質問するのか。(できるだけ早く専門家と連絡を取りなさい。彼らにあなたの調査結果のコピーを送りなさい。)</p> <p>○準備しなさい。(次のような質問を予め専門家に提示しておきなさい。「この問題はどれくらい深刻なのか。その問題の原因は何か。」「その問題に関して作業している他のグループはあるのか。」「われわれはその問題に関して何をすることができるのか。」等)</p> <p>○まず練習。(専門家が到着する前にパネルディスカッションの練習をしなさい。)</p> <p>○司会者を選べ。(司会者はディスカッションを導く人である。)</p> <p>○「あなたは何を意味する?」(もしあなたが専門家が言っていることを理解できないなら、遠慮なく説明を求めなさい。)</p> <p>○ノートを取りなさい。(ノートを取ることは重要な情報を覚えておくことを援助する。)</p> <p>○読み物。(専門家から問題に関する情報を含んだ本あるいはパンフレットを手に入れなさい。)</p> <p>○他の専門家からの援助。(専門家は通常他の専門家を知っている。彼らからあなたを援助できる他の人々の情報を得なさい。)</p>
<p>礼状 (Thank-You Letter) (礼状を送りなさい。それはすばらしいことである。それはあなたを援助した人々を幸福な気持ちにさせる。)</p>
<p>原因を探すこと。(Looking for Causes) (あなたが専門家と話す時、あなたは問題の原因について討論したいだろう。Salk 博士がポリオの原因を知らなかったなら、彼はポリオワクチンを開発できなかった。健康の問題と同じように、すべての学校あるいはコミュニティの問題は原因をもっている。もしあなたが問題の原因を探すなら、あなたは解決策を発見するかもしれない。)</p>
<p>コンピューター・オンライン (Computers Online) (コンピューターとモードを持っていれば、あなたは ACT と関わっている全国のクラスメートとコミュニケーションをとることができる。ACT オンラインをともなって、あなたはあなたが何を為していくかについて話すことができ、またあなたは他の ACT と関わっている生徒が何を為しているかを学ぶことができる。複雑な問題に対するアドバイスを受けなさい。ACT オンラインは、特別なコンピューター・ファイルである。それは、International Academy One Program の中に入っている。このファイルは ACT に関わっている生徒のために特別に作られた掲示板である。コンピューターで他の ACT と関わっている生徒と話すために、あなたは電子メールをともなったインターネットアカウントとテルネットアクセスを必要とする。)</p>
<p>第三章：誰が何をしているのか？解決策を調査すること (Who's Doing What? Searching for Solutions)</p> <p>演技者を調査すること (Searching for Player) (今や主要な演技者を調査する時である。彼らは誰なのか？あなたは彼らをどこで発見することができるのか？最も重要なこと、それは、彼らがそれらの問題について何をしているのか、ということである。学校あるいはコミュニティの問題に関して作業している演技者を探すために、政府、地方ビジネス、メディア、非営利団体を見なさい。そして、彼らに次の三つの質問をしなさい。すなわち、「学校あるいはコミュニティのある問題に関して何が為されているか？」「どんな計画あるいは政策がこの問題に関してなされているか？」「他に誰がこの問題に関して作業しているのか。そして私は彼らをどのように知ることができるのか？」と。)</p> <p>○政府。(政府の仕事は、決定を下し、人々にサービスを提供することである。政府は学校を援助し、またコミュニティを生活に適した場所とすることを援助する。政府は一つの演技者となりうる。)</p> <p>○ビジネス。(コミュニティなしに、ビジネスはビジネスの対象者を持つことができない。他の人々のように、彼らは魅力のある環境で生活したいと思っている。ビジネスは市政府を支援するために税金としてたくさんのお金を納めている。彼らはまたビジネス成長を援助したいと願う政治家たちを支援している。ビジネスは演技者である。)</p>

○メディア。(すべてのビジネスのように、メディアは人々に依存している。コミュニティなしに新聞は読者を持たないし、ラジオやテレビは視聴者を持たない。しかし、メディアはまたある問題についての世論を形成することができる。メディアは演技者の一つである。)

○非営利団体。(それは営利を目的とするビジネスとは異なる。教会は非営利団体である。ホームレスに食事を提供しているほとんどのグループは非営利団体である。人々にタバコを止めさせたいと思っているグループは非営利団体である。非営利団体は演技者となる。)

主要な演技者1：政府 (The Mayor Player : Government) (あなたのコミュニティは国家政府、州政府、地方政府によって統治されている。そしてあなたはおそらく二つの地方政府を持っている。一つは都政府、もうひとつは町政府あるいは市政府である。あなたの学校もまた一つの政府を持っている。外側から見ると、政府は非常に大きくそして非常に複雑に見える。しかしこれらの異なるすべての政府が学校あるいはコミュニティの問題に関してあなたを援助できる人々を有している。援助できる政府の人々と接触するために、あなたは政府の構造を知る必要がある。政府の構造がどうなっているのか？誰が法律を通過させるのか？決定を下すのは？政府がどのような形態となっているかを明らかにしなさい。)

○政府職員を探すこと。(選挙で選ばれた職員は演技者である。彼らはコミュニティの計画、政策を作るのを援助している。彼らはあなたを援助することができる。選挙で選ばれた職員を探しなさい。それぞれの職員について次のことを調べなさい。)

- 名前
- 彼あるいは彼女のオフィスの住所
- 電話番号
- 所属政治団体

○政府の職員と話すこと。(あなたは作業すべき学校のあるいはコミュニティの問題を選んだか？もしそうだとするなら、あなたは政府の職員と話す準備があるかもしれない。電話をかける前に、次の項目をチェックしなさい。)

- 電話のために準備しなさい。(電話する人を書き出しなさい。)
- 質問のリスト作りなさい。(同じ質問がないか確かめなさい。)
- 良い時間を選びなさい。(朝が良い時間の一つである。もし不在だったら、留守番電話にメッセージを残しなさい。)
- はっきりと話しなさい。(理解して欲しい、とあなたは願うだろう。)
- あなたは誰か？あなたは何を欲しているのか？(あなたが誰なのか、あなたの電話の目的が何かについてその人に伝えなさい。)
- すでにあなたを援助している他の人の名前を伝えなさい。(それは話しを進めやすくするだろう。)
- ノートを取りなさい。(もしあなたが話しを理解できないなら、その人に説明を求めなさい。そして、ノートを取りなさい。)
- 忍耐強く、礼儀正しくしなさい。(コミュニケーションは難しいということを覚えておきなさい。忍耐強くあること。あきらめるな。)
- 感謝。(援助するために時間を取らせたことに対してその人に感謝しなさい。)

○政府の職員を発見すること。(電話帳の政府のページを見なさい。連邦政府、州政府、郡政府、市政府あるいは町政府の下を見なさい。)

- 選挙された州職員。(「州政府オフィス」の下を見なさい。「上院」と「下院」を探しなさい。あるいは、州案内所に電話しなさい。)
- 選挙された郡職員。(「郡政府オフィス」の下を見なさい。「郡執行者局」を探しなさい。さもなければ、郡案内所に電話しなさい。)
- 選挙された市職員。(「市議会」のための「市政府オフィス」、あるいは人々が地方政府と呼ぶもすべてのものの下を見なさい。もしあなたが電話帳に地方政府を発見することができなかったら、市庁舎に電話をかけ、情報を要求しなさい。)

主要な演技者2：ビジネス (The Mayor Player : Business) (ビジネスとコミュニティは依存し合っている。コミュニティはビジネスから仕事とお金を得ている。ビジネスは労働者と商品・サービスを売る場所とをコミュニティから得ている。ほとんどのビジネスはコミュニティで支援者を獲得するために一生懸命働いている。多くの演技者のように、ビジネスと政府は関連し合っている。ビジネスの指導者の中には地方政府で働く者、あるいは選挙された政府職員がいるかもしれない。あるいは、選挙された政府職員と一緒に働いているかもしれない。ビジネスの人々はただ「ビジネスをする」だけではない。彼らの多くはコミュニティの部分である。彼らの中には学校へ通う子どもたちを持っている者もいる。コミュニティの中で生活し、家庭を持っている人間として、彼らはあなたを援助したいと思うだろう。)

○ビジネス集団を調査すること。(キワニス・クラブ、ロータリー・インターナショナル、ライオンズ、商工会議所といったグループを探しなさい。これらのグループはあなたを援助することに关心があるかもしれない。)

○ビジネス集団を発見すること。(ビジネス集団を発見するために、イエローページの中で、「商工会議所」「ビジネスと貿易団体」「団体」「専門団体」の下を探しなさい。ビジネスサービス集団のために、イエローページの中で、「クラブ」「団体」の下を探しなさい。あるいは、ホワイトページの中で、「ライオンズ」「キワニス」「ロータリー」の下を探しなさい。)

主要な演技者3：メディア (The Mayor Player : Media) (テレビ局、ラジオ局、新聞社、雑誌社はすべてビジネスである。しかし彼らは特別な力を持ったビジネスである。メディアは何が起こっているかをコミュニティの人々に伝える力を持っている。新聞社、ラジオ局、テレビ局は広告を売ることによってビジネスでありうる。ラジオ局とテレビ局はコマーシャルを売る。新聞と雑誌は紙面を売る。視聴者、読者はメディアにとって重要である。何が人々にテレビを見せ、ラジオを聞かせ、新聞を読ませるのか？メディアの記者は通常非日常的で常識はずれで恐ろしい話題を探している。そして、その話題は人々に見せたい、聞かせたい、読ませたいものである。)

○テレビニュースを見ること。(テレビをつけなさい。テレビ番組を見なさい。その番組ではコミュニティの計画あるいは政府の政策について話しているか？彼らはコミュニティの問題を述べているか？注意深くテレビ番組の内容を見なさい。)

- ・最初に何が放送されるか？（最初のニュース内容は何か？なぜそれが最初なのか？）
 - ・それはどここのニュースか？（それは地方の、州の、国家の、あるいは国際的な内容か？）
 - ・原因と影響。（このニュースは問題の原因と影響について話しているか？）
 - ・何についてのニュースか？（犯罪、自然災害、スポーツ等についてのニュースか？）
 - ・計画と政策。（このニュースは問題を取り扱う計画あるいは政策について述べているか？）
 - ・ビジュアル。（ニュースの内容を分かりやすくするためにその番組はどのような写真・映像を提示しているか？）
- メディア演技者を探すこと。（第2章であなたは地方のメディアを調査した。おそらくあなたはニュース記者と会った。あなたはメディアが持つ力を見た。人々に影響を及ぼすことができるよう、メディアを利用しなさい。記者や編集者は、もし聴衆に影響を及ぼすと考える記事ならば、そのニュースに関する情報を持つ人々に耳を傾ける。あなたとグループの構成員は偉大な話題を持っている。）

主要な演技者4：非営利団体 (The Major Player : Non-Profit Groups) (非営利団体はビジネスとは異なっている。彼らはお金稼ぎとはしない。彼らは政府の部分ではない。しかし、非営利団体はコミュニティの計画や政策を作るのを援助する演技者であります。いくつかの非営利団体は援助の必要のある人々を助けています。ある団体は教育に活動を経っている。非営利団体には次のようなものがある。例えば、ユナイテッド・ウェイ、ガールスカウト、シエラクラブ、Meals on Wheels等である。コミュニティの問題を取り扱っている非営利団体の演技者を探しなさい。)

- 非営利団体を探すこと。（ここではいくつかの異なるタイプの非営利団体の事例をあげる。）
- ・「環境グループ」は動植物の健康に関して働いている。より小さな環境グループは地方の問題に焦点を合わせている。
 - ・「労働組合」はときどきあなたの近隣の雇用を取り扱うコミュニティグループを含んでいる。
 - ・「電話身の上相談サービス」は援助の必要のある人々を助け、彼らを援助できるサービス機関に関する有益な情報を掲んでいる。
 - ・「子どもと青年プログラム」はレクリエーション、カウンセリング、指導者制度(mentoring)、児童虐待と非行防止等を提供する。
 - ・「教会と宗教グループ」はときどきコミュニティに奉仕する。
 - ・「他のサービスとボランティアグループ」には下のようなグループがある。
 - ・「食べ物とシェルター」：援助の必要な人々に住居と食べ物を提供するプログラム。
 - ・「移民」：コミュニティへの移民を定着させるプログラム。
 - ・「老人」：老人にリクリエーション、法律、医療、栄養、カウンセリング、住居といったサービスを提供するプログラム。
 - ・「アルコールと麻薬の被害」：防止と取り扱いに関するプログラム。
 - ・「女性」：レイプの犠牲、暴行を受けた女性、ホームレスの女性といった女性の危機を助けるプログラム。

政策の前と後：七つの質問 (Policy Pros & Cons : Seven Questions)

- (1) この政策の目標は何か？（もしあなたがある政策が何をなすことになっているかを知っているなら、あなたはその成功あるいは失敗を予測することができる。）
- (2) 問題の原因と影響は何か？（問題の原因は何か？もしあなたが原因を知っているなら、あなたはその解決策を探すことができる。もしあなたがその影響を知っているなら、あなたはその問題がどの程度深刻なのかを知っていることになる。）
- (3) この政策は問題の原因と影響を取り扱っているか？（問題の原因を取り扱う計画は通常最も良く機能する。単に影響のみを取り扱っている計画は対処療法治的である。それは傷を癒すを助けるかもしれない、しかし、それは被害を受けることからあなたを保護しない。）
- (4) その政策が誰を支援するのか？それで誰が被害を受けるのか？（誰が支援を獲得し、誰が被害を受けるのかを明らかにすることは、政策の結果をあなたが理解するのを援助することができる。）
- (5) その政策は使用される機会を持っているのか？（誰がその政策に関する最終的な決定を下すのか？彼らはそれを支援するだろうか？）
- (6) その費用は適切か？（政策遂行にかかる費用が適切かどうかを明らかにする最も単純な方法は、その便益と費用を計測することである。）
 - ・「便益」：例えば、30個の鮮やかに塗られたゴミ箱を設置することが公園のゴミ問題を解決するかもしれない。
 - ・「費用」：例えば、公園をきれいにするために、30個のゴミ箱を600ドルで買うことに価値はあるのか？
 - ・「副次的な効果」：例えば、もしあなたが公園をきれいにするなら、より多くの人がその公園を利用するだろう。しかし、ある者は公園の清潔さを維持するためにより一生懸命に働くなければならない。それは結果的に高くて副次的な効果である。
 - ・「費用に対する便益の重み付けをしなさい」：政策の便益と費用を例挙した後で、あなたはそれらに重み付けをしなさい。例えば、公園をきれいにすることは（ゴミ箱のために払われる）600ドルの価値があるか？
- (7) もう一つの政策は何か？（コミュニティグループは実行可能な一つの計画をもっているにすぎないが、それが必ずしも有效地に機能するというわけではない。もしそれが有効に機能しないとするなら、あなたはどうする？第4章ではそのことについて触れる。）

第四章：あなたは何をすることができるか？代替案を探求すること (What Can You Do? Exploring Options)

オプションを探すこと (Looking at your Options)（今までの活動を振り返りなさい。あなたはコミュニティについて探求した。あなたは作業したいと考える問題を見た。あなたはあなたを援助することができる演技者を探した。今や次の質問に答える時である。すなわち、「あなたは何をすることができる？」「あなたの選択あるいはオプションは何か？」、と。われわれはあなたの選択のすべてを次の二つの基本的なオプションの下にまとめることができる。）

- オプション1：あなたはすでに存在するグループの中でボランティアとして作業することができる。
- オプション2：あなたは独自のプロジェクトを始めることができる。

オプション1：ボランティア (Option # 1: Volunteering)（第3章で、あなたはある問題に対してすでに作業しているグループを見た。多くの非営利団体はコミュニティの問題に対して作業している。あなたはコミュニティの問題に対して作業している非営利団体の中でボランティアとして作業することができる。グループの構成員と一緒にボランティアしなさい。あなたはたくさんことを学ぶことができる。）

- 技能のリストを作りなさい。（あなたはコンピューターが得意か？あなたは何を学びたいか？あなたは誰を援助したいか？）
- あなたはどれだけの時間を費やしたいか？（あなたとグループの構成員は学校時間中にボランティアをすることができるか？）
- 真面目にボランティアに取り組みなさい。（人々のグループを援助することは大人の活動である。それは仕事に似ている。）
- 学習することを要求しなさい。（作業方法について学習したいということを人々に伝えなさい。人々はあなたを援助すべきである。）
- たくさんの質問をしなさい。（そこで作業をしている人々に作業について尋ねなさい。彼らはどんな問題に対して作業しているのか？）
- その団体が援助している人々と話しなさい。（彼らはどんな問題を抱えているのか？そのプログラムは彼らを援助できるのか？）

オプション2：独自のプロジェクトを始めること (Option # 2: Starting Your Own Project)（あなたの第2の選択肢あるいはオプションは、あなたが独自のプロジェクトを始めることである。それはたくさんの作業を必要とするだろう。また、あなたは教師と他の人々からの援助を必要とするだろう。しかし、あなたはそれをすることができる。そして、ある問題に関して何かをすることは良い気持ちのするものである。）

- ブレインストーミングがアイデアをまとめる。（下の質問を討論しなさい。あなたの考えを書き出しなさい。このリストを保存しなさい。作業を進めるにつれて、あなたとグループの構成員は学校あるいはコミュニティの問題を取り扱うより良い方法を見つけるだろう。）
 - ・学校あるいはコミュニティである問題を取り扱おうとする計画あるいは政策に名前を付けなさい。
 - ・学校あるいはコミュニティで問題に関して作業するグループに名前を付けなさい。あなたは彼らと一緒に作業したいと思うか？
 - ・学校あるいはコミュニティである問題を取り扱うプロジェクトを開発することができるか？

説得すること (Reach out to Persuade)（あなたがACTプロジェクトを実施しているということを伝えなさい。あなたは次のことが必要になるかもしれない。あなたはプロジェクトのためにボランティアを獲得する必要がある。あなたはプロジェクトを後援するビジネスを見つける必要がある。あなたはプロジェクトが良い話題を持っているということを記者に伝える必要がある。あなたはオフィスのスペースを貸してくれる非営利団体を獲得する必要がある。あなたが人々に願うのはあやゆる種類の事情である。そこで、次のような疑問が生じる。あなたはそれらをするために人々をどのように説得することができるか？ギリシャの哲学者アリストテレスは2000年以上も前に説得の論理をまとめた。アリストテレスによれば、人々を説得するためには三つの方法が存在する。あなたは、〈1〉合理性－思考、〈2〉彼らの感情に訴えること－感情、〈3〉人々にあなたを信じ込ませること－信頼、によって彼らを説得することができる。）

- 思考 (thoughts)（合理性はあなたが人々を説得するために持つ最も重要な方法である。あなたはあなたが何をしているのかに対して良い理由を持っている。この理由を共有することによって、あなたはあなたを支援する人々を説得することができる。）
 - ・事実、図表、専門家の意見、調査結果を取り出しなさい。
 - ・どこで情報を手に入れたかを知らせなさい。
 - ・事実と図表を人々に理解させなさい。
 - ・あなたが望んでいることと知っていることを結び付けなさい。（例えば、「私はあなたと一緒に作業したい。なぜなら、私はこの問題があなたを夢中にすることを知っているからである。」）

- 感情 (feeling)（人々は情緒あるいは感情に基づいて重要な意思決定（誰と結婚するか、どこに住むか、どのように働くかそして休むか）下す。あなたは誰かが「それは確かに正しいと感じる」あるいは「私はそれが好きだからそれをした」と言うのを聞いたことがあるはずだ。あなたは ACT プロジェクトに強い感情を持っているか。もしもあなたが正しい方法でそれらを共有できるなら、あなたはあなたを援助する人々を説得することができる。）
 - ・プロジェクトが人々の必要とするもの（食べ物、避難所、安全、所属、自尊心）の獲得にどのように役立つかを示しなさい。
 - ・プロジェクトが人々やコミュニティをどのように援助できるのかを人々に示しなさい。
 - ・人々を刺激しなさい。（あなたがどれくらい楽しいのかを人々に示しなさい。）
 - ・あなたと一緒に作業することについて人々に良い感じを与えてなさい。（人々が得意な何か（彼らがあなたを援助するのに使用することのできる何か）を発見しなさい。）

- 信頼 (trust)（合理性と情緒は力強い。しかし、もしもあなたが誰かを信頼しないなら、あなたは彼あるいは彼女があなたに対して話していることを信じないだろう。もしもあなたが人々を説得するつもりなら、あなたは彼らの信頼を得なければならない。あなたの友人やクラスメイトはおそらくすでにあなたを信頼している。あなたはまたコミュニティの人々にあなたを信頼させなければならない。）
 - ・人々が何を言わんとしているかに注意しなさい。
 - ・フェアであれ。（真実を語りなさい。）
 - ・何について語っているか知りなさい。（できる限り多くのことを学びなさい。もし何かを知らないなら、それをごまかそうとするな。）
 - ・現在行なっていることに信念を持っていることということを示しなさい。（あなたの関心の高さと熱狂的であることを示しなさい。）
 - ・冷静さを保ちなさい。（もし誰かがあなたをばかにしたら、10を数えなさい。常にイライラしている人を人々は信頼しない。）

- ・フレンドリーでありなさい。(あなたはあなたを好きでない人を説得することはできない。)

テクニック1：行政官に手紙を書くこと（Writing Letters to Official）（手紙は知らない人々と話す偉大な方法の一つである。知事・国會議員・環境に関する専門家は個人的にはあなたを知らないかもしれない。しかし、彼らは重要な問題に関する手紙を読むことができる。もしあなたが良い手紙を書くなら、人々は返事を返すだろう。形式的な手紙はあなたが説得したと考える人々に<たとえそれが見知らぬ人であっても>送ることができる。形式的な手紙は、あなたの考えをはっきりとさせ、知らない人々にあなたの考えを理解させるのを援助する確実な方法である。ここでは情報を得るために形式的な手紙の書き方を述べる。）

- 注意深く封筒に住所を書きなさい。（返事を得るためにも、あなたの住所を封筒に書きなさい。）
- あなたは誰か？（手紙の冒頭にあなたの名前と住所を書きなさい。）
- あなたは何をしているか？（第1パラグラフで、あなたが何をしているか、なぜあなたがその問題に関心があるかを人々に伝えなさい。）
- コピーを取りなさい。（手紙をコンピューターあるいはファイルに保存しなさい。それはすぐに発見できる場所に保存すべきである。）
- 一つの問題に絞りなさい。（犯罪、大気汚染、失業等、一つの手紙に多くのことを書くな。）
- 手紙をダブルチェックしなさい。（イディオム、スペル、文法の間違いは読み手をとても混乱させる。）
- 短く、シンプルに。（1ページあるいはそれ以下にあなたの考えをまとめなさい。彼らは非常に忙しい。）
- あなたの手紙は読むことができる？（タイプライター、コンピューターを使用しなさい。さもなければ、丁寧に手紙を書きなさい。）
- あなたの支援者の名前を書きなさい。（知事はあなたの仕事を好きですか？あなたの手紙の中に支援者の名前を書きなさい。）
- 尊敬しなさい。（あなたの考えを率直に語りなさい。）

テクニック2：「それを書かせなさい！手紙キャンペーン」（“Get It Write!” A Letter-Writing Campaign）（ニュージャージー州の子どもは巨大マクドナルド企業に対して発泡ポリスチレン製のカップとハンバーガーのラップをリサイクル紙を使用した包装紙に代えることを説得した。彼らをそれを全国レベルの「手紙キャンペーン」によって実現した。数には力がある。もし政治家・企業・メディア・非営利団体が一枚の手紙に注意を払うなら、多くの手紙がなすことのできることについて考えなさい。あなたとグループの構成員はあなたを支援する他者を得ることができる。）

- あなたの標的を計画しなさい。（誰があなたの手紙を受け取るべきか？知事か？議会のメンバーか？その人々の住所を探しなさい。）
- チラシを準備しなさい。（その問題を説明しなさい。あなたが手紙を書いている人々の名前と住所を与えなさい。ある人が手紙を書くのに必要なすべての情報を含みなさい。）
- 店を開店しなさい。（学校あるいは商店街にカード・テーブルを設置する許可を要求しなさい。あなたの「手紙キャンペーン」を説明するポスターを作りなさい。）
- K.I.S.S./Keep it short and simple.（短い手紙を書くことを店員に要求しなさい。店員に紙とペンと住所を与えなさい。）
- 形式的な手紙を送るな。（手書きの手紙は、ある人が本当に注意しているということを示す。）
- 人々の名前・住所・電話番号を得なさい。（手紙を書いている人々はあなたの問題について注意を払っている。彼らはあなたと一緒に作業したいかもしれない。）
- 援助。（あなたは彼らに手紙を送ることを提案することができる。封筒と郵送に対する小さな貢献を他者に要求しなさい。）

テクニック3：嘆願書（Reach Out with Petitions）（嘆願書は何千という書名を伴なった一枚の手紙に似ている。あなたの学校の校長、知事、市議会のメンバー、ビジネスの理事、新聞社の編集者、非営利団体の幹部に嘆願書を送りなさい。ここでは、嘆願書の事例を述べる。）

- あなたは誰に書いているか。（あなたを援助できる個人あるいはグループに対して嘆願書を送りなさい。）
- あなたの嘆願書に明確で単純なタイトルを与えてなさい。（あなたが何を欲しているのかを人々に伝えなさい。）
- あなたの考えをはっきりとさせなさい。（あなたが何について語っているのかを人々が理解できるように分かりやすく述べなさい。）
- あなたは誰か。（嘆願書の上にあなたのグループの名前が記されているか確認しなさい。）
- 短い手紙のように嘆願書を書きなさい。（その問題の内容とあなたが何をしているのかを手短に述べなさい。署名の空間を忘れるな。）

テクニック4：署名を集めること（Gathering Signatures）

- あなたの問題とあなたの計画について人々に話すこと。
- 人々に彼ら独自の選択をさせなさい。（いくつかの人はサインをしないだろう。それも彼らの権利である。）
- あなたの友人に最初にサインさせなさい。（人々はもし他人がすでにサインしていたらより早くサインしてくれるかもしれない。）
- あなたがそれを送る前に嘆願書のコピーを取りなさい。（それをあなたのファイルに保存しなさい。）
- あなたが嘆願書を送った時にそれは偉大な効果を得る。（人々はあなたのプロジェクトに気を留めるだろう。嘆願書を公共のイベントで提示しなさい。メディアを招待しなさい。）

テクニック5：公衆の面前で話すこと（Speaking in Public）（あなたとグループの構成員が10代のためのセンター<teen center>を始めることを決定することについて考えてみよう。市議会はあなたが大きな会合でプロジェクトについて話す機会を与える。あなたはたくさんの人々の前でどのように話すのか？あなたが見知らぬ人々の前でうまく話すためには、次の二つのことが必要である。第一に、あなたは10代のセンターについてよく知る必要がある。第二に、あなたはしっかりと準備する必要がある。ここでは、公衆の面前で話すためのコツを示す。）

- あなたは何について話しているのか？（あなたの話しの目標は何か？一行であなたの目標を述べてみなさい。）
- スピーチのために考えをブレインストームしなさい。（あなたの考えのすべてを書き出しなさい。）

<ul style="list-style-type: none"> ○あなたのスピーチを書き出しなさい。(あなたが話している間、それは道路地図のような役割をするだろう。) ○それを二度書きなさい。(第一にあなたの考えを書き出しなさい。第二に読み直し、それをスムーズなものにしなさい。) ○始めること終えること。(心を摑む導入と、強力な結論を考えなさい。スピーチの要点を言い換えながら繰り返す方法を見つけなさい。) ○あなたのスピーチのハイライト。(キーワードと要点に色付けをしなさい。それを見なくとも話せるまで学習しなさい。) ○実践、実践、実践。(友人、グループの構成員、家族の前でスピーチを繰り返しなさい。)
<p>テクニック 6 : チラシ (Reach Out with Leaflets) (見映えが良く、読みやすいチラシはあなたが何百という人々と接触するのを援助することができます。あなたの関心、そしてあなたがその関心について何を為すことを計画しているかを彼らに伝えなさい。あなたの学校のコンピューターでチラシを作りなさい。あるいは、マーカーでチラシを作りなさい。あなたはチラシのたくさんの中身を必要とする。あなたのチラシを掲示板に張りなさい。あるいは、それを配りなさい。次に示すのは、チラシの作り方である。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○あなたのチラシの目的は何か。(人々にある問題について伝えるためにチラシを利用しなさい。あなたはまたあるイベントを人々に伝えるようなチラシを用意することができる。何を?どこで?いつ?) ○明確に、単純なタイトルを書きなさい。(タイトルであなたは何について語っているかを説明すべきである。) ○事実を使用しなさい。(人々はあなたがなぜあるプロジェクトに関して作業しているかを知りたい。できるなら、そのプロジェクトが重要であることを人々を説得できるような情報を見つけなさい。) ○K.I.S.S. (人々はたくさんの中身を書いてあるチラシを読まない。絵や漫画が役立つ。) ○あなたは誰か。(もし人々があなたの作業に興味があるなら、彼らはあなたを発見したい。チラシに住所や電話番号を書きなさい。) ○チラシに関して話をさせなさい。(人々はあなたに質問をしたいかもしれない。あるいはチラシやプロジェクトに関してコメントしたいかもしれない。彼らはあなたの良いアイデアを与えるかもしれない。) ○他者と接触すること。(あなたのチラシに興味のある人々の名前と電話番号を得なさい。あなたはパートナーを発見できる。) ○チラシを紙くずにするな。(チラシを放り投げている人はいないか?それらを拾いなさい。)
<p>テクニック 7 : ニュースレター (Newsletters) (あなた独自のニュースレターを印刷したいか?あなたはそれをすることができます。ニュースレターはあなたが何をしているか、なぜそれをしているかを人々に伝える。あなたは新しい情報を付け加えていくことができる。コンピューターで、あなたは明確で読みやすいニュースレターをデザインし、印刷することができる。それをクリップアート <コンピューターグラフィック> でデザインしなさい。あるいはあなたの独自の絵や漫画でデザインしなさい。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○何が良いニュースレターのニュースを作るか。(コミュニティの問題についての記事を書きなさい。出来事のカレンダーと一緒に貼りなさい。手紙を印刷しなさい。プロジェクトの進歩を報告しなさい。) ○実際上の質問。(どこでニュースレターを印刷するか。紙・切手にはどれほどの必要がかかるか。あなたは住所録を持っているか。) ○大きさは、枚数は。(小さいものから始めなさい。誰が読者か?学校は?近隣は?何枚あなたはコピーしたいか?) ○ニュースレターの名前は。(人々が始めに読むのはタイトルである。注意を引くような名前にしなさい。) ○仕事を分担しなさい。(ニュースレターを作るのは大きな仕事である。すべての者が援助すべきである。)
<p>テクニック 8 : 芸術的な仕事 (Reach Out with Artwork) (われわれすべてはある種の芸術的才能を持っている。あなたはどんな才能をもっているか?あなたは自分自身の仕事を表現するためにアートギャラリー、コンサートホール、劇場を必要とはしない。あなたの町の若者が自転車事故によって傷つけられあるいは殺されたことを創造してみなさい。あなたはこの問題に対して人々の注意を引きたいと考えるだろう。そのためには、自転車事故で友人を失ったことに関する脚本を書くこと、車によって踏み潰された自転車の彫刻作品を制作すること、落書き用の壁に壁画を描く許可を得ること、自転車に乗る人々の視点から見たあなたの町の風景に関するビデオを作成すること等の方法がある。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○それをあなた自身でやりなさい。(ドラマ、絵画、音楽、ダンスを通してメッセージを発するのに専門家である必要はない。) ○良いアイデアをブレインストームしなさい。(あなたは何を言いたいのか?) ○明確で単純であることを維持しなさい。(あなたは言いたいことを一文で表現することを心掛けなさい。) ○ユーモアを使いなさい。(ユーモアを使うことを恐れるな。笑いは人々を新しいアイデアへと導くだろう。) ○専門家に尋ねなさい。(プロの芸術家、役者、音楽家を招待しなさい。そして、あなたの仕事の援助をお願いしなさい。)
<p>テクニック 9 : ポスターと標識 (Posters and Signs) (ポスターは広告掲示板の広告に似ている。ポスターは何百という生徒あるいは店主にメッセージを送ることができる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○鮮やかな紙を使いなさい。(これは注意を引くだろう。) ○馬鹿げたタイトルを書きなさい。(大きく、鮮やかで、美しくあれ。人々の注意を引き、あなたの目的を述べなさい。) ○K.I.S.S. (人々はあなたのメッセージをすばやくそして遠くから読む必要がある。メッセージは短く単純にしなさい。)
<p>メディア・スキル 1 : 編集者への手紙 (Letters to the Editor) (すべての日刊紙には「編集者への手紙」というセクションがある。投稿することで、あなたは人々にプロジェクトを伝えることができ、問題に関心のある新聞を得ることができ、選挙された職員の注目を集めることができ、問題あるいはプロジェクトが重要であることを他者に伝えることができる。もしあなたの投稿が掲載されれば、それを他者に見せなさい。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新聞を見なさい。「編集者への手紙」を新聞の中で見つけなさい。そこでは、あなたがどこに投稿すべきかが書いてあるだろう。) ○あなたの名前・住所・電話番号を含みなさい。(もし新聞に掲載されることになったら、おそらく編集者はあなたに連絡を取るだろう。) ○K.I.S.S. (短く、単純に。一つの問題に焦点を絞りなさい。) ○要点を絞りなさい。(なぜあなたが書いているのかを伝えなさい。もしあなたが計画や解決策を持っているなら、それを書きなさい。)

○明らかにしなさい。(生徒であることが必ずしも掲載の好条件になるわけではない。あなたが知っていることを明らかにして、また、良い文章を作りなさい。)

メディア・スキル2：新聞発表 (Reach Out with a News Release) (コロラド州・ジェファーソン郡の生徒は彼らのACTプロジェクトに関する記事を掲載することを地方新聞に要求した。ジェファーソン郡の地方新聞はACTプロジェクトに関する記事を書いた。なぜなら、新聞社が生徒からの要求文を受け取ったからである。新聞発表をすべての新聞社に要求しなさい。)

○物語を書きなさい。(あなたは計画している行動について書きなさい。それを新しい物語として書きなさい。新聞記者は通常もっとも重要な情報から始め、五つのW〈who, what, where, when, why〉に答える。)

○物語にカギ括弧を使いなさい。(「カギ括弧」は読者の注意を引き、彼らに読みたいという感情を抱かせる。あなたの物語でどの部分が特別な部分か？あなたがコミュニティに関して何かをしているということを忘れるな。)

メディア・スキル3：公共サービスの告知 (Reaching Out with PSAs) (あなたはあるイベントについて多くの人々に話したいと考えるか？ラジオ局とテレビ局は公共サービスの告知を放送しなければならないという連邦法がある。これらは公共サービスの告知〈PSA's : Public Service Announcements〉と呼ばれる。ラジオ局はたくさんのPSA'sを持っています。ここでは、PSAを書く際のコツを示す。正確な言葉あなたはアナウンサーに伝えて欲しいだろう。)

○できるだけ長い放送時間を確保しなさい。(放送局は通常短いPSAを好む。長くとも、15~30秒である。)

○早めにあなたのPSAを送りなさい。(放送局は準備期間を必要とする。)

○五つのWに答えなさい。(新聞発表のようにPSAは五つのWに答えなければならない。)

○読むことができるかどうかチェックしなさい。(声を出してあなたのPSAを読んでみなさい。)

政治スキル：どのように法案は法律になるのか (How a Bill Becomes a Law) (法案を法律にするためには、次のことが必要である。)

○スポンサー。(法律の立案者はそれを提出しなければならない。)

○接触によって指示を得ること。(法案は委員会で提案されるだろう。委員会は法案を議論し、変更を指示するだろう。もし委員会が法案を支持するなら、法案は委員会を通過する。)

○立法者によって投票されるだろう。(上院と下院の両方が法案を提案し、それを委員会に送り、それを通過させるために投票しなければならない。)

○知事・州知事・大統領がそれに署名しなければならない。(これは州と連邦のレベルで起こる。いくつかの地方政府は法案を法律にするために知事のサインを必要としない。また、政治家へのロビーイングも必要である。)

○法律を学習しなさい。(どのように法律は作られるのか？)

○あなたの主題を知りなさい。(政治家はたくさんの見方に耳を傾ける。あなたがACTの専門家であることを忘れるな。)

○パートナーを探しなさい。(あなたと同じような関心を持つグループを探しなさい。おそらく政治家と一緒にあなたはロビーイングができる。)

○アポイントメントを取りなさい。(それが忙しい政治家と話す唯一の方法である。)

○実践、実践、実践。(あなたが話したい内容をリストを作りなさい。グループの中で会話を練習をしなさい。)

○声明文、記事、ニュースレター、チラシを利用しなさい。(あなたが実際に行ったことを彼らに示しなさい。)

○あなたが何を欲しているかを示しなさい。(「われわれはあなたの支持を得ることができるか？」)

○感謝状を送りなさい。(結果がどうであれ、立法者に感謝状を送りなさい。あなたは再び会うかもしれない。)

第五章（何をあなたはするつもり？：行動を起こすこと）(What will You Do?: Taking Action)

行動計画を立てなさい(Building an Action Plan) (グループで集まりなさい。あなたの行動計画は次の九つのステップに分けられる。)

1 問題。(Problem)：あなたはどんな問題に関して作業したいのか？(学校の隣りの空き地は雑草で覆われている。座るための影や場所はないし、リクリエーションをする施設や設備も整っていない。)

2 目標。(Goals)：あなたは何を達成したいか？(空き地を放課後の活動にとって安全で、注目を集め、有益な場所に変えなさい。)

3 選択肢。(Options)：あなたはどのようにあなたの目標を実現するつもりか？(オプション1：空き地を清掃するよう市を説得しなさい。オプション2：異なる場所にレクリエーション領域を作りなさい。オプション3：学校あるいはコミュニティプロジェクトとして空き地を清掃しなさい。生徒・親・教師・校長の調査はほとんどの人々が空き地を清掃することを望んでいる。)

4 課題。(Tasks)：誰がどんな仕事を行なうか？(仕事1：空き地を清掃する許可を学校委員会に要求しなさい。仕事2：空き地を清掃するために労力と道具の寄付を地方のビジネスに要求しなさい。仕事3：市公園局で放課後リクリエーション・ディレクターに会いなさい。)

5 スケジュール。(Timeline)：それぞれの仕事にどれくらいの時間を費やすか？(始めに何をするか？次に？三番目に？それぞれの課題にどれくらいの時間かけるか？)

6 パートナー。(Partners)：誰があなたを援助するか？(学校委員会。コミュニティに住む公園デザイナー。不動産屋。あなたのコミュニティ・プロジェクトに関する記事を書きたいと考える記者。放課後スポーツプログラムを実施したいと考える教師。市議会のメンバー。)

7 障害物。(Obstacles)：あなたの仕事にはどんな障害物が存在するか？(あなたは何も変えることができないと考える子ども。リクリエーション領域にお金を費やしたくないと考える学校委員会のメンバー。町の他の場所に公園建設を計画している公園局の職員。)

8 評価。(Evaluation)：あなたはあなたの成功をどのように計測するか？(あなたはどのように行動しているか？あなたは他の生徒・教師・親・学校委員会からの援助を獲得したか？あなたは地方ビジネスからの援助を獲得したか？)

9 運営費。(Budget)：それにはどれくらい必要なのか？(あなたは目標を実現するためにどれくらいのお金を必要とするか？)

行動を起こすこと 1：基金調達（Fund-Raising）（あなたのプロジェクトは進行中である。無料で長い距離を進むことは可能である。一緒に作業を進めながら、生徒は通常彼らが必要であることを手に入れることができる。おそらく文房具店はチラシに必要な紙を寄付してくれるであろう。おそらくあなたの学校はイベントのために体育館を使用させてくれるであろう。あなたはコミュニティにおいて清掃されることを必要とする空き地に関するビデオを作成したいと言つてみよう。あなたはどこでカメラを調達するか？誰がテープのお金を出してくれる？編集に必要なお金は？コピーに必要なお金は？遅かれ早かれ、あなたはいくらかのお金を必要とするだろう。ここでは基金調達のためのコツを述べる。）

- 蓄えを守りなさい。（あなたはいくらお金を持っているか？あなたは何のためにお金が必要か？あなたはどれくらい必要か？）
- 要求しなさい。（もしあなたが要求しないなら、あなたは受け取ることはできない。会合で帽子をまわしなさい。ちらしにあなたの住所を書きなさい。もしあなたはチラシを配っているなら、誰かが言うだろう。「私は援助したい。でも時間がない。」通常あなたは言うことができる。「わかった。わたしたちは寄付を受け取る。」）
- それは価値があるか？（あなたの基金調達の努力は時間とエネルギーを費やす価値があると確信しなさい。）
- 家に近いところから始めなさい。（あなたは誰を知っているか？あなたのACTプロジェクトにお金を与えるかもしれない友人や家族のリストを作りなさい。）
- あなたの目標を述べなさい。（人々はそれらのお金がどこで使われるかを知りたい。もしあなたがあなたの組織と目標を述べている単純な陳述を持っているなら、あなたはお金をを集め、同時にあなたのプロジェクトに関する言葉を広めることができる。）

行動を起こすこと 2：基金調達イベント（Fund-Raising Events）（帽子をまわし、ダンスあるいはコンサートを開き、映画を上映し、ウォーカソンをし、ガレージセールを行ない、車を洗い、ラッフルくじを売り、舞台上演し、ピンやアルミ缶を売り、Tシャツを売り…。基金調達イベントはとても楽しい。そしてそれは、あなたがACTプロジェクトに関する言葉を広める絶好のチャンスである。ここでは、見事な基金調達者となるためのコツを示そう。）

- 前もって計画しなさい。（あなたはどれくらいお金を調達するつもりか？あなたの蓄えを見なさい。）
- イベントを楽しみなさい。（基金調達は大変な仕事である。あなたが楽しめるようなプロジェクトを選びなさい。）
- スケジュールを作りなさい。（課題と締め切りを決定しなさい。たくさんの時間を取りなさい。たくさんの仕事と不十分な時間はパーティをだめにする。）
- 費用を明らかにしなさい。（非常にお金のかかる大きなイベントを計画するな。それはすべてのお金を食い潰してしまう。）
- プロジェクトの予想と結果。（どんな種類のイベントが最も容易いか？どんな種類のイベントが少しの時間で実行できるか？どんな種類のイベントがたくさんのお金を集めることできるか？）
- 新しい人々を引きつけなさい。（他の人々はあなたが何をしているか、なぜあなたがそれをするのかを知ることができるか？）
- 関係を持ち続けなさい。（あなたにお金を与える人はあなたの基金調達イベントに出席する人々のリストを保存しなさい。彼らに感謝しなさい。あなたは後で支援を彼らに求めるかもしれない。）

行動を起こすこと 3：会合を開くこと（Conducting Meeting）（一緒に作業する人々はアイデアを共有するために、計画を作るために、プロジェクトの進展を計測するためにミーティングを持つことを必要とする。あなたのミーティングは組織され、適切な時にに行なわれ、楽しまれるべきである。ここでは見事なミーティングを組織するコツを示す。）

- 目標を決めなさい。（ミーティングの目標あるいは目的は何か？）
- 言葉を広めなさい。（チラシ、掲示板のポスターを利用しなさい。日時、場所が書かれているか確認しなさい。）
- 人々にたくさんの時間を与えなさい。（ミーティングを開くまでに、たくさんの時間を与えなさい。）
- あなたはどんな材料を必要とするか？（十分なイスとチラシがあるか確認しなさい。誰がそれらを用意するのか？）
- 議題を作りなさい。（議題はあなたがミーティングで話し合う必要のある話題のリストである。）
- リーダー。（リーダーは議題を参照しながらミーティングを進める。リーダーはすべての者が参加できる機会を作りなさい。）
- あなたはアドバイザーを欲しいか？（大人はアドバイスを与えることによってあなたを援助することができる。）
- あなたはどのように決定するか？（小集団では、すべての人が同意するまで決定に関する議論が継続される。あるいは、多数決で決定する。）
- 終わりの時間を決める。（終わりのないミーティングほど悪いものはない。それぞれのトピックに費やす時間を制限しなさい。）
- 議事録。（何が起きたかを忘れないように、誰が何を言ったかを記録しなさい。）
- 部屋をきれいにして去りなさい。（部屋を汚いまま去ることはあなたのグループに悪い印象を与えることになる。）

集団の葛藤を解決すること（Resolving Group Conflicts）（人間は激しく働くことで、時々、お互いに神経質になる。葛藤は楽しくない。しかしそれは生活上で現実に生じる。あなたはそれを良いコミュニケーションで解決することができる。ここでは葛藤を解決するための提案を示す。）

- 問題を取り扱いなさい。（あなたは問題を共有することができる。それを解決するために一緒に作業しなさい。）
- 共通の理由を探しなさい。（両者は何を欲しているのか？論争を解除するためにお互い進んでなすことのできる三つを上げなさい。）
- 「あなた」の代わりに「私」を利用しなさい。（「私は私が考えていることを言いたい」は「あなたは私に何も言わせない」よりも良い作業である。）
- 他者のために話すな。（もしあなたが誰か他の人について話しているなら、止めなさい。）
- 裏面を見なさい。（他者の見方を理解しようとしなさい。最も良い方法は他者が何を欲しているのかを質問することである。）
- あなたが意味することを言いなさい。（あなたが選択した言葉の意味を明確にしなさい。）
- 注意深く聞きなさい。（あなたが議論において話す前に、他者が言ったことを繰り返すようにしなさい。）
- それを紙の上に書きなさい。（あなたは物事を書き留める時、あなたはあなたの考えを明確にしなさい。）

○あなたの創造力を働かせなさい。(問題を解決するのには多くの方法が存在する。)

- 評価とリフレクション (Evaluation & Reflection) :** (あなたが ACT プロジェクトに関して作業している間、立ち止まり、あなたがしていることについて考えることが重要である。あなたがしていることを注意深く眺めなさい。評価はあなたが問題を正確に把握し、良い計画を立て、経験から多くを得ることを援助する。評価することとリフレクションすることを、プロジェクトの終わりまで待ってはいけない。この重要な過程は、すべての主要な活動とイベントの後で起こるべきである。それは三つの段階を含んでいる。第一に、あなたの方法を評価すること。第二に、あなたが遂行したことを評価すること。第三に、あなたが学習したこと振り返ること。ここでは、あなたが為していることを評価するためのコツを示す。)
- 評価基準を創造すること。(あなたの進歩を計測するのに、あなたは「活動後」の断片を比較するためにも「活動前」の断片を必要とする。)
 - あなたの行動の軌道を維持しなさい。(どれくらいあなたは会合を持った?どれくらいの人が出席した?どれくらいの生徒をあなたは指導した?どれくらいの時間をあなたは費やした?これらの数はあなたが進歩を測定するのを援助するだろう。)
 - あなたの進歩を記録しなさい。(あなたの行動を記録するために、ビデオとカメラを利用しなさい。あなたのグループファイ尔にあなたの行動を書き出しなさい。あなたの目標と計画のチェックリストを作りなさい。)
 - 比較しなさい。(あなたは比較することによってあなたの進歩を計測することができる。例えば、もしあなたが学校の近くの落書きを消そうとしたなら、あなたは同じ問題を持った町内の他の場所とその壁を比較することができる。)
 - 毎日 ACT ジャーナルを書きなさい。(あなたがしたこと、感じたことを書き出しなさい。)
 - あなた自身を表現しなさい。(あなたの ACT プロジェクトについて考える時間を作りなさい。どのように、なぜ、あなたは含まれたのか?あなたは何を学んだのか?これらはあなたの個人的な思考である。あなたはそれらを共有することができる。)
 - 「客観的な目」を探しなさい。(信頼の置ける大人あるいは友人からあなたの ACT プロジェクトに関するコメントをもらいましょう。)

また、次に示すのは、第五章において具体的な行動を行なう前に作成される「行動計画書」の内容である。

【図表 3】 行動計画書

(それぞれのステップの質問に答えなさい。)

ステップ 1 : 問題

- I . あなたが選んだ問題は何か?それを一文で述べてみなさい。
- II . その問題はコミュニティにどのような影響を及ぼしているか?それはどの程度深刻か?
- III . どのような個人あるいはグループがもっとも大きな影響を受けているか?
- IV . コミュニティの人々はその問題に関して何をしているか?政府、ビジネス、非営利団体を含めて考えてみなさい。彼らの計画あるいは政策は機能しているか?なぜか、あるいはなぜそうでないのか?

ステップ 2 : 目標

あなたのプロジェクトの目標は何か?それぞれの目標を手短に、単純に書くことを試みなさい。

ステップ 3 : 選択肢

- 1 . あなたの選択肢を評価しなさい。
 - A . 問題に関して作業することに対してあなたはどのような選択肢を持っているか?
 - B . これらの選択肢のうちどれが最も良く機能するか?
 - C . これらの選択肢のうちどれがあなたの資金との関係で最もよく機能するか?あなたはどれくらいの時間・資金・材料を持っているか?どれくらいの協力者やパートナーをあなたは持っているか?
- 2 . これはあなたの計画である。目標達成のために必要な基本的なステップを書き出しなさい。

ステップ 4 : 課題

- 1 . プロジェクトを遂行するためにあなたはどのような課題を遂行しなければならないか?ミーティング、調査、情報収集、調整すること、許可を得ること、場所を探すこと等の課題を含みなさい。
- 2 . それぞれの課題を誰が行なうのか?

ステップ 5 : スケジュール

誰がそれぞれの課題を遂行するのか?どの課題を第一に行なうのか?誰がそれらを行なうのか?締め切り日はいつか?誰が、何を、いつまでに行なうかを明らかにしなさい。

ステップ 6 : パートナー

誰があなたのプロジェクトを支援するのか?政府、ビジネス、非営利団体、メディア、他のコミュニティのメンバーに注目しなさい。

ステップ7：障害物

何一あるいは誰一があなたのプロジェクトの成功にとって主要な障害物となっているか？

ステップ8：評価計画

あなたはプロジェクトの成功をどのように計測するのか？

ステップ9：運営費

どのような資源（人々、お金、技能、材料）をあなたがプロジェクトを実行する際に必要となるだろう？あなたはどこでどのようにこれらの資源を手に入れるのだろうか？供給源、材料、そして、あなたがそれぞれの項目のためにどれくらいのお金が必要かを列挙しなさい。あなたはこれらの要求にどのように対応するのか？

さらに、次に示すのは、第五章の最後に示した、「評価とリフレクション」場面において、生徒が利用する表である。この表を参考にしながら、生徒はリフレクションを行なう。なお、リフレクションは、活動の最後のみに実施されるものではなく、日常的・継続的に行なわれるものである。このリフレクションの視点が、「サービス・ラーニング」の特徴である。

【図表4】 評価とリフレクション

(それぞれのセクションの質問に答えなさい。)

1. あなたの行動計画

これはあなたが目標を達成するために使った方法について考える機会を提供する。グループで、以下のことについて議論しなさい。

- (1) あなたの計画はどれくらい良く実施されたか？あなたの課題は目標を実行したか？あなたとグループの他の構成員は課題に対して十分な時間を費やしたか、他の課題に関しては不十分であったか？あなたは何かを除外したか？あなたはより良く計画できたか？
- (2) あなたとグループの構成員はチームとしてどれくらい良く作業できたか？あなたはチームワークをどのように改善することができたか？
- (3) あなたはどのような問題に直面したか？あなたはそれをどのように解決したか？

2. 結果を評価すること

- (1) あなたの目標を見なさい。あなたはそれらを実行したか？あなたのプロジェクトあるいは活動は意味のあるものだったか？どのように？結果は長く継続するだろうか？
- (2) あなたはあまりに激しく作業しなければならないので、目標を達成することができなかつたか？なぜ、あるいはなぜそうでないのか？
- (3) もしあなたが再びやり直さなければならなかつたら、あなたは異なつた何をするだろうか？

3. あなたは何を考えているか？

一人の時間を取りなさい。下の質問の答えを書き出しなさい。

- (1) あなたはこのプロジェクトの結果として変化したか？どのように？
- (2) あなたは何を学んだか？このプロジェクトに関して作業することによってあなたはどのような新しいアイデアあるいは知恵を得たか？
- (3) あなたはこのプロジェクトのために未来において何をするだろうか？

4. 全体像

ACT グループの構成員とペアになりなさい。下の質問について議論し、答えを書き出しなさい。大きなグループに戻り、あなたの答えを共有し、議論しなさい。

- (1) あなたの計画はどの程度効果的だったか？
- (2) あなたはどのような問題に直面したか？あなたはそれらをどのように解決したか？
- (3) チームとしてのあなたのグループ作業はどうだったか？あなたはチームとして作業することについて何を学んだか？
- (4) あなたは達成したか？まだ何かなざれる必要があるか？
- (5) あなたはその問題にどのようなインパクトを与えたか？
- (6) コミュニティについてあなたは何を学んだか？
- (7) あなたは問題の原因と結果について何を学んだか？
- (8) もしあなたがこの問題に関して再び取り組むことになったら、あなたは何をするだろうか？
- (9) あなたは前に進むためにどのような計画を立てるか？あなたの次のステップは何か？

5 おわりに～ACTの意義と限界～

ACTは一種のマニュアル本である。それは、生徒がそして教師が「サービス・ラーニング」を展開する際に利用する手引書である。生徒は常に『フィールド・ガイド』を胸に抱え、学習を進める中で必要となった場合にはそれを利用する。また、教師は生徒用『フィールド・ガイド』と教師用『ハンドブック』を参考にしながら、必要に応じて生徒に適切な助言を行なう。つまり、ACTが意図するのは、学習の焦点を「政策立案」に絞り、そのために必要な知識・技能を系統的・組織的に生徒に学習させるところにある。このような学習の系統化・組織化に対しては、「それは生徒の学習を方向付けるものである」という批判が予想される。しかし筆者はそのようなマニュアル本が必要であると考えている。生徒と教師が学習を進める中で常に参考にする、そのような手引書が必ずや生徒の学習を充実としたものにするだろう。

最後に、ACTの限界について述べておきたい。それは、第一に、ACTが社会科カリキュラムとして開発されているために、他の教科(数学や音楽等)の視点をACTに取り入れることを困難にしているということである。中学校は教科担任制になるために、教科の繩張り意識が強い。そのような意識を崩し、学際的な教師のチームによって学習を進めるところに「サービス・ラーニング」の一つの意義がある。そのような意味において、ACTを学際的カリキュラムとして実践していくのにはさらなる工夫が必要である。第二に、ACTでは学習を政策作成プロセスに限定して議論しているので、他の体験的な活動を導入することが難しいということである。例えば、「ものを作る」とか「動植物を育てる」といった活動は、その作業自体に価値がある。それは政策の問題に関連付けなくとも成立する学習である。そのような学習を認めていくことは、ACTでは困難だろう。

【註】

- ACTでは、「サービス・ラーニング」に関する様々な定義を参考にしながら、「『サービス・ラーニング』プロジェクトのためのガイドライン (Guidelines for Service-Learning Projects)」として、「サービス・ラーニング」を次の六つの特徴から捉えている。

- ◆効果的な「サービス・ラーニング」は実際の経験を通して学問的な学習を強化する。
- ◆効果的な「サービス・ラーニング」は学校あるいはコミュニティの諸問題を研究することを含む。
- ◆効果的な「サービス・ラーニング」は学校あるいはコミュニティに存在する現実の諸問題に対応するプロジェクトを開発することを含む。
- ◆効果的な「サービス・ラーニング」はそのプロセスのあらゆる側面に青年を含む。
- ◆効果的な「サービス・ラーニング」は学校とコミュニティの内だけでなく、学校とコミュニティの間に問題解決的なパートナーシップを建設する。
- ◆効果的な「サービス・ラーニング」は為したこと・見たことを考え・話し・書くことへと生徒を導くリフレクションの時間を含む。

² 高校用が以下の二冊。

• Hayes, B., and Degelman, C. (1994). *Active Citizenship Today : Field Guide for High*

- School. Alexandria, VA : Close Up Foundation ; Los Angeles, CA : Constitutional Rights Foundation.
- Zack, D., Berkowitz, L., Hayes, B., and Degelman, C. (1994). *Active Citizenship Today : Handbook for High School Teachers*. Alexandria, VA : Close Up Foundation ; Los Angeles, CA : Constitutional Rights Foundation.
- 中学校用が以下の二冊。
- Degelman, C., and Hayes, B. (1995). *Active Citizenship Today : Field Guide for Middle School*. Alexandria, VA : Close Up Foundation ; Los Angeles, CA : Constitutional Rights Foundation.
 - Berkowitz, L., and Zack, D. (1995). *Active Citizenship Today : Handbook for Middle School Teachers*. Alexandria, VA : Close Up Foundation ; Los Angeles, CA : Constitutional Rights Foundation.
- ³ Fertman, Carl I., White, George P., and White, Louis J. (1996). *Service Learning in the Middle School : Building a Culture of Service*. Columbus, OH : National Middle School Association. pp. 30-32.
- ⁴ Clark, T., Croddy, M., Hayes, W., and Philips, S. (1997). Service Learning as Civic Participation. *Theory into Practice*, 36-3. p. 164.
- ⁵ Ibid, p. 165.
- ⁶ Ibid.
- ⁷ Ibid.
- ⁸ Ibid.
- ⁹ Ibid.
- ¹⁰ Ibid.
- ¹¹ Ibid.
- ¹² Ibid, pp. 166-167.
- ¹³ Ibid, p. 167.
- ¹⁴ Ibid.
- ¹⁵ Ibid.
- ¹⁶ Berkowitz, L., and Zack, D. (1995). pp. 18-20.
- ¹⁷ Ibid, pp. 20-21.
- ¹⁸ Ibid, pp. 21-23.
- ¹⁹ Ibid, pp. 23-24.
- ²⁰ Ibid, pp. 24-25.
- ²¹ Ibid, pp. 26-27.
- ²² Ibid, p. 31.
- ²³ Ibid.
- ²⁴ Ibid, pp. 31-32.
- ²⁵ Ibid, p. 32.
- ²⁶ Ibid.
- ²⁷ Ibid.

²⁸ Ibid.

²⁹ Ibid, pp. 32-33.

³⁰ Ibid, p. 33.

³¹ Ibid, p. 13.